

No. 08

# 平成3年度業務報告書

平成4年10月

国際協力事業団  
沖縄国際センター

沖縄七

CR(3)

92-3

1000

36

OIC

BRARY

JICA LIBRARY



1104489[8]

24942  
国際協力事業団

24942

I . 収入支出決算 . . . . .	1
1 . 収入の部	
2 . 支出の部	
II . 研修員受入事業 . . . . .	1
1 . 技術研修	
1 - 1 . 集団研修コース	
1 - 2 . 個別研修	
1 - 3 . 研修員受入数実績	
1 - 4 . フォローアップ事業等の実施	
2 . その他の各種研修	
2 - 1 . 日本語研修	
2 - 2 . 日本語研修以外の研修員に対する各種講座	
2 - 3 . 研修実施機関関係者に対する英語研修講座	
III . 研修員に対する福利厚生事業 . . . . .	2
1 . 福利厚生事業及び地域交流	
2 . 研修員の健康管理	
IV . 施設の運営管理 . . . . .	3
1 . 施設の運営管理	
2 . 宿泊実績	
3 . 施設の整備	
V . その他の活動実績 . . . . .	4
1 . 視察及び見学者数	
別添資料 . . . . .	5 ~ 8
旧沖縄支部 平成 3 年度業務報告 . . . . .	8 2 ~ 9 8

## I. 収入支出決算

### 1. 収入の部

平成3年度における施設利用等の総収入は、184,722千円であり、対前年度比9.9%の増であった。

(資料-1参照)

### 2. 支出の部

平成3年度の総支出額は1,705,328千円であり、前年度より13,141千円の増額であった。これは、研修員受入事業の拡大にともない管理費が24%、施設運営費が9.9%と増加、又、出資金等施設整備費も43,061千円の支出があったことによる。

(資料-1参照)

## II. 研修員受入事業

### 1. 技術研修

#### 1-1. 集団研修コース

平成3年度においては、平成2年度からの継続2コース及び平成2年度新規の25コース、計27の研修コースを実施した。

平成3年度新規の研修コースについては、昨年度と同様である。

研修コースの実施概要については、資料-19に掲げた。

(資料-2、18参照)

#### 1-2. 個別研修

平成3年度は、平成2年度に受入れた7名の研修員の研修を継続して実施し、新規分の57名と合わせて、計64名の研修を実施した。新規分の57名のうち、14名の研修員が集団研修コースに参加した。

(資料-3参照)

#### 1-3. 研修員受入数実績

平成4年3月31日現在、当事業団沖縄支部で受入れた研修員数を含め96ヵ国から1,866名の研修員を受入れた。地域別の研修員受入実績は、アジア地域1,059名(56.7%)、中南米地域351名(18.8%)、中近東地域218名(11.7%)、アフリカ地域159名(8.5%)、オセアニア地域62名(3.3%)、欧州地域17名(0.9%)である。

(資料-4、5、6参照)

#### 1-4. フォローアップ事業等の実施

平成3年度においては、予算的制約もあり平成2年度の実施を見送った、「熱帯農林資源の有効利用」及び「海洋保全」の2コース、並びに、「臨床看護実務」コース、以上の3コースに係るフォローアップ調査団の派遣を実施した。

##### (1) 熱帯農林資源の有効利用コースに係るフォローアップ(公開技術セミナー)調査団の派遣:

公開技術セミナー開催による、当該分野における最新技術情報の提供、並びに現地調査による、帰国研修員の活動状況・現地の技術事情・我が国の研修に対するニーズ把握を目的として、本件コースの受入れ実績の高い、タイ及びインドネシアに対し、平成4年3月11日から25日まで15日間、4名から成る調査団を派遣した。

##### (2) 海洋保全コースに係るフォローアップ調査団の派遣:

今後のコース実施に役立てるべく、現地調査による、帰国研修員の活動状況・現地の技術事情・我が国の研修に対するニーズ把握を目的として、本件コースの受入れ実績の高い、タイ、マレーシア及びインドネシアに対し、平成3年12月2日から21日まで20日間、3名から成る調査団を派遣した。

##### (3) 臨床看護実務コースに係るフォローアップ調査団の派遣:

今後のコース実施に役立てるべく、現地調査による、帰国研修員の活動状況・現地の技術事情・我が国の研修に対するニーズ把握を目的として、本件コースの受入れ実績の高い、パキスタン、フィリピン及びスリランカに対し、平成3年10月8日から26日まで19日間、3名から成る調査団を派遣した。

## 2. その他の各種研修

### 2-1. 日本語研修

#### (1) 日本語専修コース

当センターは、昭和60年度から毎年2コースの日本語専修研修を実施している。平成3年度は、継続、新規併せて3コースを開設し、22名の研修員が本研修コースに参加した。

(資料-2参照)

#### (2) 集中及び一般講習

平成3年度は、7研修コース47名の研修員に対し、のべ965時間の日本語集中講習を実施した。また、一般講習については、のべ5時間行ない、15研修コース159名の研修員が受講した。

また、集中講習を受講した研修員の要望に基づき、夜間特別講習をのべ88時間開講し、27名の研修員が参加した。

(資料-7参照)

#### (3) 日本語スピーチ大会

日本語学習の動機付けと運用能力の向上を目的とし、平成4年20月(19名参加)、受講時間別、研修コース別の代表者による日本語スピーチ大会を開催した。

### 2-2. 日本語研修以外の研修員に対する各種講座

情報処理分野の夜間講座

本講座はコンピュータに関する知識を持たない研修員を受講対象に、情報処理分野の常勤講師の指導によって3回実施し、22名の研修員が参加した。講習終了時には、①パソコンの概要が理解できる、②パソコンのワープロ機能を使用しての文書作成、③表計算機能を使用して統計表の作成及びデータのグラフ化ができること、を目標とし、十分な成果が得られた。  
(資料-8参照)

### 2-3. 研修実施機関関係者に対する英語研修

平成3年度に研修実施機関の要請を受けて実施した当該機関関係者に対する英語研修は、4件、合計53名であった。総経費は1,857千円であり、一人当たりの経費は35千円となる。

(資料-14参照)

## III. 研修員に対する福利厚生事業

### 1. 福利厚生事業及び地域交流

平成3年度の研修員に対する文化活動、レクリエーション、地域交流等の福利厚生事業は、当センター主催の行事が22件、地域の団体、個人等の招待による行事等が122件、合計144件であった。研修員を招待する外部の団体等が幅広く様々な分野であること、全体の51%の行事が土曜日(39件)、日曜日(35件)に行われたことは、平成3年度の傾向と同様である。

日曜日に行われた福利厚生行事は殆ど外部の各種団体からの招待であった。

ホームステイ、ホームビジットについては、沖縄地区青年会議所及び浦添青年会議所の主催により2回実施され、地域の住民から合計48件の協力が得られた。内訳はホームステイ44家族、のべ49名、ホームビジット4家族、のべ11名の研修員が受け入れられた。この他、個人的にホームステイを実施している方々がかかり多くいるが、実際の件数は調査困難のため、不明である。  
(資料-9、10参照)

## 2. 研修員の健康管理

琉球大学医学部の医師との間で嘱託医の契約を締結し、週2回（火、金曜日、2時間）当センターの健康相談室で研修員の病傷に対する治療及び健康相談を行っている。

平成3年度に治療及び健康相談等で健康相談室を利用した研修員数は、のべ343人（うち、病院でさらに治療を要した研修員数は約17.8%の61名）であり、内科、皮膚科に関する治療及び相談が多かった。

地域別の利用者数については、アジア地域の研修員が最も多いが、受入れ人数との割合から見ると、アフリカ地域からの研修員の利用率が高く、この傾向は平成2年度と同様であった。

入院を要した研修員は2名であった。また、病気のため早期帰国した研修員が2名であった。

（資料-11, 12, 13参照）

## IV. 施設の運営管理

### 1. 施設の管理運営

当センターの施設管理は、第一建築サービス株式会社に業務委託している。委託内容は、フロント、設備、清掃、保安、車輛、植栽及び食堂の各業務であり、常勤、非常勤あわせて約50名の派遣社員がセンターの施設管理に当たっている。

### 2. 宿泊実績

平成3年度の宿泊実績は、総計30,034人日、入館率82.06%であった。宿泊利用収入及びオリエンテーションルーム等その他の施設利用収入を合計した施設利用総収入は、112,944千円であった。

（資料-15参照）

### 3. 施設等の整備

平成3年度に整備した主な施設等は、管理・厚生施設関係7件、研修施設関係2件、合計9件、総経費64,544千円であった。

設立8年目にはいる次年度以降も、当地の高温多湿の気候や潮風により施設のいたみが早く進行するため、施設の修理・保守に係る経費を確保していく必要がある。また、研修コースの増設に伴って研修監理員、常勤講師の増員があり、事務所、講師室のスペースが狭くなりつつあり、対策を講じる必要がある。

（資料-16参照）

## V. その他の活動実績

### 1. 視察及び見学者数

平成3年度に当センターを視察または見学のために訪れた人数は、7,457人であった。

見学者の年齢層は幼稚園児から老人クラブ会員と幅広く、また、地方の国際化に関する教育の一環として地方公共団体の職員や民間法人の社員が当センターを見学している。

地域における当センターの知名度は十分高いが、国際協力事業団及び当センターの事業目的や内容について十分に理解されているとは言い難いので、今後とも開発途上国の実状、技術協力等に関する広報活動を強化したい。

(資料-17参照)

## 別 添 資 料 目 次

	ページ
資料- 1. 収入支出決算表	5
資料- 2. 平成3年度集団コース受入実績表	6
資料- 3. 平成3年度個別研修受入実績表	7
資料- 4. 年度別集団コース及び個別研修員受入実績表	10
資料- 5. 平成3年度コース別・国別研修員受入実績表	11
資料- 6. 年度別・国別研修員受入実績表(昭和57年～平成2年度)	13
資料- 7. 平成3年度集中及び一般日本語講習実施実績表	16
資料- 8. 平成3年度研修員に対する日本語研修以外の各種講座	17
資料- 9. 平成3年度研修員福利厚生事業及び地域交流事業実績表	18
資料- 10. 平成3年度ホームビジット、ホームステイ受入先一覧表	23
資料- 11. 平成3年度健康相談室科目別利用状況表	25
資料- 12. 平成3年度健康相談室地域別利用状況表	26
資料- 13. 平成3年度入院研修員一覧表、平成2年度病気早期帰国研修員一覧表	27
資料- 14. 平成3年度研修実施機関関係者に対する英語研修実績表	28
資料- 15. 平成3年度施設利用実績表	29
資料- 16. 平成3年度施設等整備事業実績表	30
資料- 17. 平成3年度視察及び見学者数集計表	31
資料- 18. 平成3年度集団・特設研修コース実施概要	32～83



## 収 入 支 出 決 算 表

第1表： 収 入 の 部

予 算 科 目	平成3年度	平成2年度	平成元年度	昭和63年度	昭和62年度	昭和61年度	昭和60年度	昭和59年度	累 計
〈施設利用収入〉 (項) 施設利用収入 (目) 施設利用収入	167,297千円 167,297千円 167,297千円	165,508千円	166,906千円	167,644千円	147,290千円	107,910千円	82,692千円	7,349千円	1,102,596千円
〈雑収入〉 (項) 雑収入 (目) 雑収入	1,333千円 1,333千円 1,333千円	1,588千円	757千円	287千円	236千円	341千円	1,509千円	625千円	6,676千円
〈運営補助収入〉 (項) 運営補助収入 (目) 運営補助収入	16,092千円 16,092千円 16,092千円	964千円	0千円	6,522千円	24,972千円	65,854千円	78,803千円	25,465千円	218,672千円
[合 計]	184,722千円	168,060千円	167,663千円	174,453千円	172,498千円	174,105千円	163,004千円	33,439千円	1,327,944千円

第2表： 支 出 の 部

予 算 科 目	平成3年度	平成2年度	平成元年度	昭和63年度	昭和62年度	昭和61年度	昭和60年度	昭和59年度	累 計
〈管理費〉 (項) 業務管理諸費 (目) 庁 費 (目) 国内研修施設勘定繰入 (項) 施設費 (目) 施設費	72,397千円 58,226千円 42,086千円 16,140千円 14,171千円 14,171千円	58,377千円	45,544千円	54,214千円	75,735千円	105,808千円	112,317千円	65,359千円	589,751千円
〈出資金等施設整備費〉 (目) 施設費	43,061千円 43,061千円	32,178千円	0千円	36,151千円	42,150千円	0千円	0千円	0千円	153,540千円
〈海外技術協力事業費〉 (項) 技術研修員受入事業費 (目) 受入諸費 (目) 研修諸費 (目) 調査諸費 (目) 所属先給与補填経費	1,405,846千円 1,405,846千円 172,976千円 1,224,639千円 8,231千円 0千円	1,433,572千円	1,413,398千円	1,526,135千円	1,351,710千円	1,293,585千円	1,029,612千円	379,173千円	9,833,031千円
〈施設運営費〉 (項) 施設運営業務諸費 (目) 職員旅費 (目) 庁 費	184,024千円 184,024千円 369千円 183,655千円	168,060千円	167,663千円	174,453千円	172,498千円	174,105千円	163,004千円	33,439千円	1,237,246千円
[合 計]	1,705,328千円	1,692,187千円	1,626,605千円	1,790,953千円	1,642,093千円	1,573,498千円	1,304,933千円	477,971千円	11,813,568千円

## 資料 - 2

## 平成3年度集団研修コース受入実績表

	NO	研修コース名	定員	受入人数	研修期間	研修実施機関	開設年度・回数	関係省庁	備考
継続	1	視聴覚技術(一般)	10名	5名	3. 1. 24~ 3. 5. 3 (3.5ヶ月)	沖縄国際センター	59年度・7回	JICA	
	2	日本語専修(B)	8名	10名	2. 9. 27~ 3. 5. 27 (8ヶ月)	沖縄国際センター	60年度・6回	JICA	
	(小計)		18名	15名					
新	【情報処理要員養成コース】		150名						
	1	マネジメント	14名	9名	3. 8. 29~ 3. 10. 25 (2ヶ月)	沖縄国際センター	60年度・7回	JICA	2年度に新設
	2	システムエンジニア(A)	10名	9名	3. 5. 9~ 3. 8. 23 (3.5ヶ月)	沖縄国際センター	61年度・6回	JICA	
	3	システムエンジニア(B)	9名	9名	3. 10. 31~ 4. 2. 23 (4ヶ月)	沖縄国際センター	61年度・6回	JICA	
	4	オンラインシステム設計(A)	15名	14名	3. 5. 9~ 3. 10. 12 (5ヶ月)	沖縄国際センター	61年度・6回	JICA	
	5	オンラインシステム設計(B)	12名	11名	3. 10. 17~ 4. 3. 30 (5.5ヶ月)	沖縄国際センター	H2年度・2回	JICA	
	6	データベースシステム設計(A)	15名	11名	3. 4. 4~ 3. 9. 7 (5ヶ月)	沖縄国際センター	61年度・6回	JICA	
	7	データベースシステム設計(B)	13名	12名	3. 9. 26~ 4. 3. 8 (5ヶ月)	沖縄国際センター	H元年度・3回	JICA	
	8	インストラクタ	11名	10名	3. 9. 26~ 4. 3. 15 (5.5ヶ月)	沖縄国際センター	60年度・7回	JICA	
	9	シニアプログラマ	14名	12名	3. 5. 16~ 3. 9. 21 (4ヶ月)	沖縄国際センター	60年度・7回	JICA	
	10	パーソナルコンピュータ・プログラミング(A)	15名	14名	3. 4. 4~ 3. 7. 27 (4ヶ月)	沖縄国際センター	60年度・7回	JICA	
	11	パーソナルコンピュータ・プログラミング(B)	13名	12名	3. 7. 25~ 3. 11. 17 (4ヶ月)	沖縄国際センター	60年度・7回	JICA	
12	パーソナルコンピュータ(ネットワーク)	9名	10名	3. 11. 21~ 4. 3. 30 (4.5ヶ月)	沖縄国際センター	H元年度・3回	JICA		
新	【視聴覚技術コース】		28名						
	13	サウンドスライド制作	10名	※8名	3. 5. 23~ 3. 9. 16 (4ヶ月)	沖縄国際センター	H2年度・2回	JICA	2年度に新設 2年度に新設 視聴覚技術(一般)
	14	ビデオ制作	9名	10名	3. 9. 5~ 4. 2. 8 (5ヶ月)	沖縄国際センター	H2年度・2回	JICA	
15	視聴覚技術	9名	10名	4. 2. 13~ 4. 5. 22 (3ヶ月)	沖縄国際センター	59年度・8回	JICA		
規	【日本語専修コース】		14名						
	16	日本語専修(A)	7名	7名	3. 9. 5~ 4. 3. 8 (6ヶ月)	沖縄国際センター	60年度・7回	JICA	
	17	日本語専修(B)	7名	7名	3. 10. 24~ 4. 6. 29 (8ヶ月)	沖縄国際センター	60年度・7回	JICA	
	18	航海技術(航海士)	5名	5名	3. 4. 4~ 3. 12. 2 (8ヶ月)	(財)日本船舶職員養成協会 会沖縄支部	57年度・10回	運輸	
		航海技術(機関士)	5名	5名	3. 4. 4~ 3. 12. 2 (8ヶ月)				
	19	サトウキビ栽培	5名	5名	3. 6. 20~ 4. 2. 23 (8ヶ月)	沖縄県農業試験場	57年度・10回	JICA	
	20	公衆衛生技術者	5名	5名	3. 6. 20~ 4. 2. 24 (8ヶ月)	沖縄県公害衛生研究所	58年度・9回	JICA	
	21	熱帯農林資源の有効利用	5名	4名	3. 7. 18~ 4. 3. 23 (8ヶ月)	琉球大学農学部	59年度・8回	文部	
	22	海洋保全	8名	8名	3. 8. 22~ 3. 11. 17 (3ヶ月)	第11管区海上保安本部	58年度・9回	運輸	
	23	臨床看護実務	5名	4名	3. 8. 22~ 4. 2. 24 (6ヶ月)	沖縄県立中部病院	59年度・8回	JICA	
24	森林土壌	6名	6名	3. 8. 22~ 3. 12. 8 (3.5ヶ月)	(社)日本林業技術協会・ 琉球大学農学部	60年度・7回	農水・文部		
25	植物検疫(ミバエ類殺虫技術)	5名	5名	3. 5. 9~ 3. 10. 12 (5ヶ月)	農水省那覇植物防疫事務所	63年度・4回	農水		
(小計)		241名	220名						
(合計)		259名	235名						

注1. 集団コースの研修員受入人数は、当該コースに参加した個別研修員の数を含まない。

注2. 受入人数欄内※印の8名中2名は、2研修コース参加の為、新規小計数には含まないこととする(平成2年度日本語(B)コース終了後、平成3年度サウンドスライド制作コースに参加)

平成3年度 個別研修員受入実績表(1)

	No	研修員氏名	国名	研修科目	当センター受入期間	研修機関	備考
継 続	1	Dr. I. G. A. Nugrah Anom	インドネシア	救急医療サ-ビス	H. 2. 10. 21~3. 5. 31	沖縄県立中部病院他	バリ救急病院C/P
	2	Mr. Jose Nazario Videz Roca	ボリヴァリア	家畜衛生	H. 2. 11. 6~3. 4. 25	沖縄県家畜衛生試験場	家畜繁殖改善計画C/P
	3	Mr. John D. Kantor	リベリア	日本語(B)コース	H. 2. 10. 19~3. 5. 27	沖縄国際センター	森林航測C/P
	4	Mr. Charles D. H. Jrateh	リベリア	日本語(B)コース	H. 2. 10. 19~3. 5. 27	沖縄国際センター	他集団コース
	5	Ms. Florencia Mendez Deherasme	ドミニカ	ラ検査技術	H. 3. 2. 18~4. 13.	琉球大学医学部	消化器病プロジェクトC/P
	6	Ms. Nesrin Yilmaz	トルコ	視聴覚技術	H. 3. 2. 3. ~6. 14.	沖縄国際センター	人口教育促進C/P
	7	Mr. Joel Muriuki Mberia	ケニア	教務運営・管理のコンピュータ化	H. 3. 2. 16~5. 17.	琉球大学工学部	ジョモケニヤック農工大C/P
新 規	1	Mr. Fahad A. M. Al-Jomma'h	サウジアラビア	オーディオ・ビデオ	H. 3. 4. 15~4. 21.	沖縄国際センター	リヤド電子技術院C/P
	2	Mr. Aung Din	ミャンマー	林業訓練方法	H. 3. 7. 28~8. 31.	琉球大学農学部	中央林業開発訓練センターC/P
	3	Ms. Chakrit Choomwattana	タイ	歴史資料館展示	H. 3. 4. 29~5. 1.	見学	アユタヤ歴史資料館計画C/P
	4	Mr. Gabriel Montes Llamas	コロンビア	植物検疫	H. 3. 6. 10~6. 13.	農林水産省那覇植物防疫事務所他	個別一般・準高級
	5	Mr. Francisco Luis Palomino	ペルー	植物検疫コース	H. 3. 5. 29~10. 12.	農林水産省那覇植物防疫事務所	個別一般
	6	Mr. Jorge Tanaka Nakamacho	ペルー	サウンドスライド制作	H. 3. 6. 1. ~9. 17.	沖縄国際センター	野菜技術センターC/P
	7	Mr. Yunus Kaplan	トルコ	サウンドスライド制作	H. 3. 5. 23~9. 16.	沖縄国際センター	人口教育促進C/P
	8	Mr. Shahruzaman Bin Mohd. Amin	マレーシア	港湾	H. 3. 7. 17~8. 18.	沖縄開発庁総合事務局運輸部	東方政策
	9	Mr. Ghazali Bin Mat Janis	マレーシア	港湾	H. 3. 7. 17~8. 18.	沖縄開発庁総合事務局運輸部	東方政策
	10	Mr. Abdul Hamid Bootthe Bin Abdullah	マレーシア	港湾	H. 3. 7. 17~8. 18.	沖縄開発庁総合事務局運輸部	東方政策
	11	Mr. Yusuf Kali	マレーシア	港湾	H. 3. 7. 17~8. 18.	沖縄開発庁総合事務局運輸部	東方政策
	12	Mr. Gursoy Mustafa	トルコ	ビデオ制作コース	H. 3. 9. 5. ~4. 2. 7.	沖縄国際センター	人口教育促進C/P
	13	Mr. Charlie E. Solo	フィリピン	ビデオ制作コース	H. 3. 9. 5. ~4. 2. 8.	沖縄国際センター	労働安全衛生センターC/P
	14	Ms. Malgorzata Maria Uberna	ポーランド	ビデオ制作コース	H. 3. 9. 5. ~4. 2. 8.	沖縄国際センター	個別一般
	15	Dr. Hazem Saad Abdel Salam	エジプト	人口家族計画	H. 3. 10. 13~10. 17.	沖縄県環境保健部	人口家族計画C/P
	16	Dr. Mohamed Ahmed El Ghazaly	エジプト	人口家族計画	H. 3. 10. 13~10. 17.	沖縄県環境保健部	人口家族計画C/P
	17	Mr. Pambudi Kusmartosh	インドネシア	人口家族計画	H. 3. 10. 13~10. 17.	沖縄県環境保健部	人口家族計画C/P

注) 受入実績は、集団研修コースに参加した個別研修員を含む。

平成3年度 個別研修員受入実績表(2)

新	18	Dr.NyS Parwati Prawito	インドネシア	人口家族計画	H.3.10.13~10.17.	沖縄県環境保健部	人口家族計画C/P
	19	Mr.Chiranjeeb Sah	ネパール	人口家族計画	H.3.10.13~10.17.	沖縄県環境保健部	人口家族計画C/P
	20	Dr.Kalyan Raj Pandey	ネパール	人口家族計画	H.3.10.13~10.17.	沖縄県環境保健部	人口家族計画C/P
	21	Ms.Maria Teresa Arias Retes	ペルー	人口家族計画	H.3.10.13~10.17.	沖縄県環境保健部	人口家族計画C/P
	22	Ms.Margarita Jesus Leiva Tito	ペルー	人口家族計画	H.3.10.13~10.17.	沖縄県環境保健部	人口家族計画C/P
	23	Mr.Gerardo Elzo Aguirre	チリ	自然保護管理	H.3.10.14~10.18.	国立公園管理事務所	集団・自然保護管理
	24	Mr.Al Akber Kaka	ケニア	自然保護管理	H.3.10.14~10.18.	国立公園管理事務所	集団・自然保護管理
	25	Mr.Pedro P. Galban	フィリピン	自然保護管理	H.3.10.14~10.18.	国立公園管理事務所	集団・自然保護管理
	26	Ms.Sumalee Chaiputpanich	タイ	自然保護管理	H.3.10.14~10.18.	国立公園管理事務所	集団・自然保護管理
	27	Ms.Ana Damaris Castillo Dleon	ヴェネズエラ	自然保護管理	H.3.10.14~10.18.	国立公園管理事務所	集団・自然保護管理
	28	Mr.Athanase Nyamacumu	ルワンダ	自然保護管理	H.3.10.14~10.18.	国立公園管理事務所	集団・自然保護管理
	29	Mr.Ivan Bolocsuk	チェコスロバキア	自然保護管理	H.3.10.14~10.18.	国立公園管理事務所	集団・自然保護管理
	30	Mr.Tadensz Jan Chmielwski	ポーランド	自然保護管理	H.3.10.14~10.18.	国立公園管理事務所	集団・自然保護管理
	31	Ms.Anong Tejjajati	タイ	自然保護管理	H.3.10.22~10.25.	沖縄県マングローブ協会他	環境研
規	32	Mr.Manit Uraken	タイ	自然保護管理	H.3.10.14~10.18.	国立公園管理事務所	集団・自然保護管理
	33	Ms.Yolanda Ramirez Prado	コロンビア	公衆衛生技術 協力	H.3.11.18~11.19.	沖縄県環境保健部	個別一般
	34	Mr.John Muriuki	ケニア	ビデオ制作コ	H.3.9.17~4.2.5.	沖縄国際センター	人口教育促進C/P

注) 受入実績は、集団研修コースに参加した個別研修員を含む。

平成3年度 個別研修員受入実績表(3)

	No	研修員氏名	国名	研修科目	当センター受入期間	研修機関	備考	
新	35	Mr.Chuah Ban Keat	シンガポール	システムエンジニア(B)	H.3.10.31~4.2.23	沖縄国際センター	第三国研修C/P	
	36	Mr.Saleh Yousef Saleh Rawashdeh	ジョルダン	システムエンジニア(B)	H.3.11.8.~4.2.23	沖縄国際センター	坂田協力隊員C/P	
	37	Mr.Nik Ahmed Ariff Bin Nik Sulaiman	マレーシア	畑地かんがい	H.3.12.9.~12.12.	沖縄県農業試験場他	水管理訓練センターC/P	
	38	Mr.Tan Gak Pen	シンガポール	陰極防食	H.3.11.25~11.27.	沖縄総合事務局他	アトム科学技術協力C/P	
	39	Mr.Ak Mennddin PLW Pg Hj Yussof	ブルネイ	陰極防食	H.3.11.25~11.27	沖縄総合事務局他	アトム科学技術協力C/P	
	40	Mr.Rewanta Man Shrestha	ネパール	教育広報	H.4.2.3~3.15	沖縄国際センター	人口家族計画C/P	
	41	Dr.(Ms.)Wanida Sinchai	タイ	人口家族計画	H.4.3.8 ~3.11	沖縄県庁、コザ保健所、県立那覇病院	人口家族計画C/P・準高級	
	42	Ms.Rachaneewan Sirinawin	タイ	人口家族計画	H.4.3.8 ~3.11	同上	人口家族計画C/P	
	43	Mr.Harwono Poerwito	インドネシア	人口家族計画	H.4.3.8 ~3.11	同上	人口家族計画C/P	
	44	Mr.Andryansyah Arifin	インドネシア	人口家族計画	H.4.3.8 ~3.11	同上	人口家族計画C/P	
	45	Mr.Ovidio Chumbe Ruiz	ペルー	人口家族計画	H.4.3.8 ~3.11	同上	人口家族計画C/P	
	46	Ms.Flor Malend Rios Trinidad	ペルー	人口家族計画	H.4.3.8 ~3.11	同上	人口家族計画C/P	
	規	47	Mr.Sriyaratne Don Edmond Danansooriya	スリランカ	視聴覚技術	H.4.2.13~5.22	沖縄国際センター	
		48	Mr.Tranquilino Cabrera Atienza Jr.	フィリピン	視聴覚技術	H.4.2.13~5.22	沖縄国際センター	
		49	Mr.Rajiv Sharma	インド	国際協力事業視察	H.4.3.5 ~ 6	沖縄国際センター、他	準高級
		50	Dr.Felipe Jesus Molina Valenzuela	コロンビア	小児科	H.4.2.16~3.4	中部病院	サンクルス総合病院C/P
		51	Mr.Fu-Qiang Yang	中国	繁殖障害防除	H.4.4.20~5.29	沖縄県農業共済組合連合会那覇診療所	天津酪農発展計画C/P
52		Mr.Xue-Hao Cao	中国	繁殖障害防除	H.4.6.1~7.10	沖縄県農業共済組合連合会那覇診療所	天津酪農発展計画C/P	
53		Mr.Jorge Fernando Plano	アルゼンティン	情報処理教育	H.4.3.29~4.1	沖縄国際センター	アルゼンティンソフトウェアセンターC/P	
54		Mr.Jorge Horacio Favalaro	アルゼンティン	情報処理教育	H.4.3.29~4.1	沖縄国際センター	アルゼンティンソフトウェアセンターC/P	
55		Mr.Osvaldo Clua	アルゼンティン	情報処理教育	H.4.3.29~4.1	沖縄国際センター	アルゼンティンソフトウェアセンターC/P	
56		Mr.Min Htoo Luin	ミャンマー	訓練方法	H.4.5.15~6.12	沖縄国際マングローブ協会	中央林業開発訓練センターC/P	
57		Mr.Chit Paw	ミャンマー	造林技術	H.4.5.15~6.12	沖縄国際マングローブ協会	中央林業開発訓練センターC/P	

注) 受入実績は、集団研修コースに参加した個別研修員を含む。

資料—4  
年度別集団研修コースおよび個別研修員受入実績表

No	研修コース名	沖縄支部受入		沖縄国際センター受入							合計		
		57年度	58年度	59年度	60年度	61年度	62年度	63年度	元年度	2年度		3年度	
1	[情報処理要員養成コース]												
2	マネージメント				17名	12名	17名	14名	17名	15名	9名	101名	
3	システムエンジニア(A)					8名	6名	10名	10名	10名	9名	53名	
4	システムエンジニア(B)					11名	9名	10名	10名	9名	9名	58名	
5	オンラインシステム設計(A)					17名	16名	15名	9名	14名	14名	85名	
6	オンラインシステム設計(B)									13名	11名	24名	
7	データベースシステム設計(A)					14名	15名	11名	12名	12名	11名	75名	
8	データベースシステム設計(B)								14名	14名	12名	40名	
9	インストラクタ				17名	11名	13名	12名	11名	10名	10名	84名	
10	シニアプログラマ(A)				12名	14名	14名	14名	13名	13名	12名	92名	
11	シニアプログラマ(B)				12名	15名	15名	15名				57名	
12	パーソナルコンピュータ・プログラミング(A)				12名	12名	15名	16名	15名	12名	14名	96名	
13	パーソナルコンピュータ・プログラミング(B)				14名	14名	15名	13名	14名	14名	12名	96名	
14	プログラマ							11名	10名	9名		30名	
15	パーソナル・コンピュータ(ネットワーク)								10名		10名	20名	
16	汎用パッケージ利用						12名	10名				22名	
17	インストラクタ(アセアン特設)				4名							4名	
17	マネージメント(アセアン特設)				6名	5名						11名	
18	[視聴覚技術コース]												
19	視聴覚技術(専修)				8名	10名	10名	10名	10名			48名	
20	サウンドスライド制作									11名	8名	19名	
21	ビデオ制作									8名	10名	18名	
21	視聴覚技術(一般)			10名	10名	11名	11名	11名	10名	5名	10名	78名	
22	[日本語専修コース]												
23	日本語専修(A)				9名	8名	10名	8名	8名	8名	7名	58名	
23	日本語専修(B)				9名	14名	12名	8名	9名	8名	7名	67名	
24	航海技術	6名	5名	12名	10名	11名	11名	10名	11名	11名	10名	97名	
25	サトウキビ栽培	6名	5名	6名	6名	5名	5名	3名	4名	4名	5名	49名	
26	公衆衛生技術者		5名	5名	5名	5名	6名	5名	5名	6名	5名	47名	
27	熱帯農林資源の有効利用			6名	6名	7名	6名	5名	4名	8名	4名	46名	
28	海洋保全		6名	4名	4名	4名	5名	6名	4名	7名	8名	48名	
29	臨床看護実務			7名	5名	6名	5名	4名	4名	5名	4名	40名	
30	森林土壌				4名	6名	6名	6名	5名	7名	6名	40名	
31	植物検疫(ミシ 類殺虫技術)							5名	5名	6名	5名	21名	
	[小計]	12名	21名	50名	170名	220名	234名	232名	224名	239名	220名	1622名	
29	個別研修員受入数	2名	1名	5名	20名	10名	16名	40名	47名	60名	43名	244名	
	[合計]	14名	22名	55名	190名	230名	250名	272名	271名	299名	263名	1866名	
		36名		1,830名									

注) 集団研修コースの受入人数は、同コースに参加した個別研修員の人数を含まない。

平成3年度 コース別・国別研修員受入実績表

コース	受入数	地域別																			その他	計															
		アジア地域	パングラデシュ	ブルネイ	中国	香港	インド	インドネシア	韓国	マレーシア	ミャンマー	ネパール	パキスタン	フィリピン	シンガポール	スリランカ	タイ	中近東地域	●アルジェリア	エジプト			ジョルダン	モロッコ	オマーン	サウディ・アラビア	スーダン	シリア	トルコ	アラブ首長国連邦	イエメン	オセアニア地域	フィジー	バブア・ニューギニア			
1	パソコン・プログラミング(A)	14	5	1	1	1	2									2						1	1									2	1	1			
2	データベース・システム設計(A)	11	2				1								1	4		1		1						1	1						0				
3	航海技術	10	4	1			1		2							3	1	2															0				
4	システム・エンジニア(A)	9	4			1	1						1		1	2		1								1							0				
5	オンライン・システム設計(A)	14	5			1	1	1	1						1	4		1							1	1	1						0				
6	植物検疫	4+1	3									1		1		0																	0				
7	シニア・プログラマー	12	3				1		1						1	3		1					1		1								0				
8	サウンドスライド制作	4+(4*)	1												1	1										1							0				
9	サトウキビ栽培	5	2			1									1	0																		0			
10	公衆衛生技術者	5	3			1							1		1	1		1																0			
11	熱帯農林資源の有効利用	4	2												1	1		0																0			
12	パソコン・プログラミング(B)	12	5			1	1	1					1		1	2		1					1										1	1			
13	海洋保全	8	4			1		1				1			1	2					1					1								0			
14	森林土壌	6	2									1			1	0																			0		
15	臨床看護実務	4	4									1	1		1	1		0																	0		
16	マネジメント	9	5	1		1				1			1		1	2		1	1																0		
17	ビデオ制作	6+4	4										2	1	1	2		1								1									0		
18	日本語(A)	7	3					1	1	1						1								1											0		
19	インストラクター	10	7			1		1	1			1	1		1	1	2			1						1								0			
20	データベース・システム設計(B)	12	6			1		1	1	1						2	4		1	1					1	1									0		
21	オンライン・システム設計(B)	11	4					1	1	1						1	3		1								1	1							0		
22	日本語(B)	7	2					1	1							0																				0	
23	システム・エンジニア(B)	7+2	5			1		1	1	1				1		2		1							1										0		
24	パソコン・コンピュータ・ネットワーク	10	6			1		1	1	1					2		1										1								0		
25	視聴覚技術	8+2	5			1							1		1	2	1		1																0		
小計		220	96	2	1	0	12	3	1	16	7	12	0	0	4	11	2	6	19	4	3	1	14	3	2	1	4	1	3	8	3	3	3	1	2		
個別研修員		43	23	0	0	1	0	0	1	4	0	5	1	3	0	1	1	0	6	3	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計		263	119	2	1	1	12	3	2	20	7	17	1	3	4	12	3	6	25	4	6	1	16	3	2	1	5	1	3	8	3	3	3	1	2		

注1 受入数欄中の+1、+2、等の数字は、集団コースにて参加した個別研修員の数 注2 ●印は当センター開設後、始めて受入対象となった国  
 注3 受入数欄中の\*印は、1研修員が2研修参加の同一人物の為、同研修員は集団の合計数に含まない(個別として研修終了後パーソナル・コンピュータ・ネットワークに参加)

コース別・国別研修員受入実績表

	受 入 数	中 南 米 地 域																欧 州 地 域																						
		ア フ リ カ 地 域	ブ ル ン デ イ	ガ ー ナ	● ギ ニア	象 牙 海 岸	ケ ニ ア	リ ベ リ ア	マ ダ ガ ス カ ル	ニ ジ エ ール	ナ イ ジ エ リア	● ル ワ ン ダ	セ ネ ガ ル	セ イ シ エ ル	シ エ ラ ・ レ オ ー ネ	タ ン ザ ニ ア	ザ ン ビ ア	中 南 米 地 域	アルゼンティン	● バルバドス	ボ リ ヴ ィ ア	ブラジル	チ リ	コロンビア	コ ス タ ・ リ カ	● ケ ー ン ヤ	● ガ イ ア ナ	ホンデュラス	メ キ シ コ	パ ナ マ	パ ラ グ アイ	ペ ル ー	● ウルグアイ	ヴェネズエラ	欧 州 地 域	● サイ プ ラス	● チェ コ ス ロ ヴ ァ キ ア	● ポー ラ ンド	ユ ー ゴー ス ラ ヴ ィ ア	
1	パソコン・プログラミング(A)	14	2	1				1								3															2		1	0						
2	データベース設計(A)	11	2		1				1							2			1										1							1			1	
3	航海技術	10	1		1											2													2							0				
4	システム・エンジニア(A)	9	1					1								1								1											1			1		
5	オンライン・システム設計(A)	14	1			1										4	1	1													1	1			0					
6	植物検疫	4+1	0													2							1								1				0					
7	シニア・プログラマー	12	3				1		1				1			3	1												1	1					0					
8	サウンドスライド制作	4+(4*)	(4*)				1		2*					1		2													1	1					0					
9	サトウキビ栽培	5	2				1					1				1											1								0					
10	公衆衛生技術者	5	0													1																			0					
11	熱帯農林資源の有効利用	4	0													2			1				1											0						
12	パソコン・プログラミング(B)	12	2											1	1	2	1					1													0					
13	海洋保全	8	1				1									1						1													0					
14	森林土壌	6	3				1				1			1		1						1													0					
15	臨床看護実務	4	0													0																			0					
16	マネージメント	9	1												1	1						1													0					
17	ビデオ制作	6+4	2				2									1											1							1			1			
18	日本語 (A)	7	0													3					1		1											1	0					
19	インストラクター	10	0													1						1													0					
20	データベース設計(B)	12	0													2	1				1														0					
21	オンライン・システム設計(B)	11	1				1									3						1						1						1	0					
22	日本語 (B)	7	1		1											4								1			1	1		1				0						
23	システム・エンジニア(B)	7+2	0													2	1				1														0					
24	ホームページ制作	10	0													2	2																		0					
25	視聴覚技術	8+2	1				1									2											2								1	1				
小 計		220	26	1	1	2	1	10	0	2	1	1	0	1	1	1	3	1	48	7	1	0	11	0	2	1	2	1	3	2	1	7	5	1	4	4	1	0	1	2
国別研修員		43	3	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	12	3	0	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	2	0	1	1	0
合 計		263	29	1	1	2	1	11	0	2	1	1	1	1	1	4	1	60	10	1	1	11	1	4	1	2	1	3	2	1	7	9	1	5	6	1	1	2	2	

注1 受入数欄中の+1、+2、等の数字は、集団コースにて参加した個別研修員の数 注2 ●印は当センター開設後、始めて受入対象となった国  
注3 受入数欄中の\*印は、1研修員が2研修参加の同一人物の為、同研修員は集団の合計数に含まない(個別として研修終了後パーソナル・コンピュータ・ネットワークに参加)



1866人	96ヶ国
-------	------

年度別・国別研修員受入実績表(1)  
(昭和57年度～平成3年度)

年度	受入数	アジア地域										中近東地域										オセアニア地域																														
		パングラデシュ	ブルネイ	カンボディア	中国	香港	インドネシア	韓国	ラオス	マレーシア	ミャンマー	ネパール	パキスタン	フィリピン	シンガポール	スリランカ	インド	バレーン	アラブ首長国連邦	エジプト	イラク	ジョルダン	レバノン	モロッコ	オマーン	カタール	サウディ・アラビア	スリダ	シリア	チュニジア	トルコ	アラブ首長国連邦	アセアン	フィジー	キリバチ	マーシャル諸島	ミクロネシア	パラオ	バプア・ニューギニア	ソロモン	トンガ	西サモア										
昭和57年度	14	13										6				2																								0												
昭和58年度	22	20										8				1																						2			1											
昭和59年度	55	47	2								11				9																							11			4											
昭和60年度	190	153									34	3			19	1	1	4	31	9	3	37															8	1	3		1		2									
昭和61年度	230	139									30	8			16	3		4	25	5	6	28															18		8	2				1	1	2	4					
昭和62年度	250	141	1								23	6			18	5	1	4	18	5	8	33															28		7	4	2		2		1	3	6	3				
昭和63年度	272	143	2								27	4			17	2	2	2	22	11	9	33																37		14	9		1	1	2	3	2	1	2	2		
平成元年度	271	131	2	1							28	4	1		19		5	1	21	6	5	28															36		11	7	3			5	4	2	4					
平成2年度	299	153	3	1							36	6			20	2	4	1	20	3	2	39															45		13	5	3		1	2	7	1	1	1	6	1	1	3
平成3年度	263	119	2	1	1						20	7			17	1	3	4	12	3	6	25															46	1	16		3		2	1	5	1	3	8	3	3		
合計	1866	1059	12	3	7	3	60	20	10	223	38	1	138	14	16	20	165	48	40	241																218	1	1	72	27	12	1	6	5	1	24	4	18	13	20	4	9



1866人	96ヶ国
-------	------

第7表 年度別・国別研修員受入実績表(3)

	欧 州 地 域	サ イ ブ ラ ス	チ ェ ッ コ ラ ス ロ ヴ ァ キ ア	ギ リ シ ヤ	マ ル タ	ポ ー ラ ン ド	ユ ー ロ ー ス ラ ヴ ィ ア
昭和57年度	0						
昭和58年度	0						
昭和59年度	0						
昭和60年度	0						
昭和61年度	1			1			
昭和62年度	0						
昭和63年度	3						3
平成元年度	3						3
平成2年度	4				1		3
平成3年度	6	1	1			2	2
合 計	17	1	1	1	1	2	11

## 資料一七

## 平成2年度日本語講習実施実績表

	集団研修コース名	受講者数	実施期間	時間数	主な使用教材	備考
集中講習	航海技術	10名	3. 4. 15～3. 5. 31	160時間	技術研修のための日本語 分冊1,2,3 より抜粋	
	植物検疫(ミバエ類殺虫技術)	5名	3. 5. 20～3. 7. 5	175時間	技術研修のための日本語 分冊1,2 より抜粋	
	サトウキビ栽培・公衆衛生技術者	10名	3. 7. 2～3. 8. 30	215時間	技術研修のための日本語 分冊1,2,3 より抜粋	
	熱帯農林資源の有効利用	4名	3. 7. 29～3. 8. 30	117.5時間	技術研修のための日本語 分冊1(ローマ字版)	
	海洋保全	8名	3. 9. 2～3. 9. 13	47.5時間	同上	
	森林土壌	6名	3. 9. 2～3. 9. 13	47.5時間	同上	
	臨床看護実務	4名	3. 9. 2～3. 11. 11	202.5時間	技術研修のための日本語 分冊1,2,3より保健医療分野テキスト	
	[小計]	47名		965時間		
一般講習	システムエンジニア(A)	9名	3. 5. 13～3. 8. 8	50時間	Japanese Conversation 50 Hours	
	データベースシステム設計(A)	11名	3. 4. 8～3. 6. 28	50時間	Japanese Conversation 50 Hours	
	パーソナルコンピュータ・プログラミング(A)	14名	3. 4. 8～3. 5. 20	24時間	Japanese Conversation 50 Hours	
	シニアプログラマ	12名	3. 5. 20～3. 8. 9	50時間	Japanese Conversation 50 Hours	
	オンラインシステム設計(A)	14名	3. 5. 13～3. 7. 19	50時間	Japanese Conversation 50 Hours	
	サウンドスライド制作	6名	3. 5. 27～3. 6. 26	24時間	Japanese Conversation 50 Hours	
	パーソナルコンピュータ・プログラミング(B)	12名	3. 7. 29～3. 9. 5	24時間	Japanese Conversation 50 Hours	
	ビデオ制作	10名	3. 9. 9～3. 10. 16	24時間	Japanese Conversation 50 Hours	
	システムエンジニア(B)	9名	3. 11. 5～3. 12. 10	24時間	Japanese Conversation 50 Hours	
	データベースシステム設計(B)	12名	3. 9. 30～3. 12. 19	50時間	Japanese Conversation 50 Hours	
	インストラクタ	10名	3. 10. 1～3. 12. 26	50時間	Japanese Conversation 50 Hours	
	オンラインシステム設計(B)	11名	3. 10. 21～4. 1. 14	50時間	Japanese Conversation 50 Hours	
	マネジメント	9名	3. 9. 2～3. 9. 11	12時間	Japanese Conversation 50 Hours	
	パーソナルコンピュータネットワーク	10名	3. 11. 27～4. 2. 28	50時間	Japanese Conversation 50 Hours	
	視聴覚技術	10名	4. 2. 17～4. 3. 13	24時間	Japanese Conversation 50 Hours	
	[小計]	159名		556時間		
[合計]	206名		1,521時間			

注) 上記の日本語講習の他に、集中または一般講習を終了した研修員を対象にして、のべ88時間の夜間特別講習を実施し、27名が受講した。

## 平成3年度研修員に対する日本語研修以外の各種講座

第5-1表 平成3年度パーソナルコンピュータ・夜間セミナー

	実 施 期 間	時間数	受講者数	対 象 研 修 員
第1回	平成3年5月14日～平成3年6月7日(15日間)	22.5時間	10名	航海技術コース
第2回	平成3年12月2日～平成3年12月6日(5日間)	7.5時間	6名	日本語専修(A)コース
第3回	平成4年2月24日～平成4年3月4日(7日間)	7.5時間	6名	日本語専修(B)コース
	[合 計]	37.5時間	22名	

## 平成3年度研修員福利厚生および地域交流事業実績

NO	月 日	曜 日	行 事 名	参加研 修員数	主催者/招待者名	場 所	職員等参 加人数
1	4月 9日	火	サッカー交流	8	沖縄クリスチャンスクール	O I C グランド	0
2	4月10日	水	サッカー交流	10	沖縄クリスチャンスクール	O I C グランド	0
3	4月13日	土	サッカー交流	10	沖縄クリスチャンスクール	O I C グランド	0
4	4月13日	土	ホームパーティ (タイ国研修員)	2	設計事務所アトリZEN	設計事務所アトリZEN	0
5	4月19日	金	ホームパーティ (タイ国研修員)	2	老人ホーム緑樹苑	緑樹苑	1
6	4月20日	土	サッカー交流	13	西原高校	O I C グランド	1
7	4月23日	火	一日郵便局長	1	浦添郵便局	浦添郵便局	1
8	4月26日	金	Get Together Party	35	PCプログラム研修員	O I C レクルーム	1
9	4月27日	土	昼食会&インタビュー会	8	那覇西高校国際報道部	O I C 食堂	2
10	4月27日	土	ホームビジット	8	Mr. & Mrs. Reasoner	Mr. Reasoner 宅	0
11	5月 3日	金	インターナショナルデイ	5	キンザー小学校	キンザー小学校	0
12	5月 3日	金	サッカー交流	8	那覇西高校	O I C グランド	1
13	5月 5日	日	那覇ハリー観戦	30	那覇市観光課	那覇新港	2
14	5月 7日	水	茶道教室	8	O I C	O I C 和室	2
15	5月11日	土	ホームパーティ	10	Mr. & Mrs. Reasoner	Mr. Reasoner 宅	0
16	5月11日	土	サッカー交流	12	浦添高校	O I C グランド	0
17	5月16日	木	東南アジアフェアレセプション	6	那覇市	パシフィックホテル 沖縄	2
18	5月17日	金	ホームパーティ (タイ国研修員)	2	老人ホーム緑樹苑	緑樹苑	1
19	5月18日	土	O I C 第1回バスツアー	69	O I C	海洋博記念公園	5
20	5月25日	土	新舞踊デモンストレーション	24	松岡錦子	O I C 体育館	2
21	5月26日	日	厚生協親睦運動会	13	(法)コロニーセンター	内間小学校グラウンド	2
22	5月31日	金	Friendship Disco Party	35	DB (A) 研修員	O I C レクルーム	0
23	6月 4日	火	創立記念祝賀会	15	(株)総合コンピュータ	(株)総合コンピュータ	1
24	6月 6日	木	新舞踊講習会	4	松岡錦子	O I C 体育館	1
25	6月 9日	日	浦添宜野湾ハリー(航海技術11名参戦)	41	浦添宜野湾漁業共同組合	牧港漁港	5
26	6月13日	木	新舞踊講習会	7	松岡錦子	O I C 和室	1
27	6月13日	木	空手講習会 (今回より毎週火・木実施)	12	仲本政博	O I C 体育館	4
28	6月20日	木	前田幼稚園児との交流昼食会	15	前田幼稚園	O I C 体育館	3
29	6月21日	金	地域交流パーティ	5	ありあけの里	ありあけの里	1
30	6月21日	金	ホームパーティ (タイ国研修員)	6	老人ホーム緑樹苑	緑樹苑	2
31	6月23日	日	南部戦跡地めぐり	4	内間児童センター	本島南部	1
32	6月23日	日	ふれあいフェスティバル	9	(社)ガールスカウト沖縄県支部	ハンビータウン	1
33	6月28日	金	交流夕食会 (タイ国研修員)	4	(株)国通開発	レストラン楽楽	1
34	6月29日	土	卓球交流会	7	沖縄総合事務局	那覇簡易保険レクセン	5

NO	月 日	曜 日	行 事 名	参加研 修員数	主催者/招待者名	場 所	職員等参 加人数
35	6月30日	日	自治会運動会	17	経塚自治会	沢岷小学校グラウンド	2
36	7月1日	月	生花講習会	12	O I C	O I C従業員食堂	1
37	7月4日	木	新舞踊講習会	8	松岡錦子	O I C和室	1
38	7月7日	白	バレーボール交流	16	全電通	N T T 体育館	2
39	7月12日	金	国際交流の夕べ	7	石嶺中学校	石嶺中学校	0
40	7月13日	土	インタビュー会	23	那覇西高校国際人文科	O I C 食堂	1
41	7月14日	日	浦添市てだこまつり (ガラス工芸・手工芸)	50	浦添市	浦添市運動公園	3
42	7月15日	月	茶道教室	15	O I C	O I C 和室	1
43	7月18日	木	新舞踊講習会	3	松岡錦子	O I C 和室	1
44	7月19日	金	ホームパーティ (タイ国研修員)	7	老人ホーム緑樹苑	緑樹苑	0
45	7月19日	金	地域交流パーティ	10	老人ホームありあけの里	ありあけの里	0
46	7月20日	土	第1回ボウリング大会	40	O I C	マチナトボウル	6
47	7月23日	火	サッカー交流	11	琉球大学サッカー部	O I C グラウンド	0
48	7月27日	土	沖縄交流武術大会	7	那覇市	那覇市民体育館	0
49	8月3~4日	土~日	団体ホームステイ	35	沖縄地区・浦添・島尻JC	沖縄県内各家庭	2
50	8月10日	土	ありあけの里地域まつり	8	老人ホームありあけの里	ありあけの里	0
51	8月11日	日	宜野湾はごろもカチャーシー祭り	17	はごろも祭り実行委員会	宜野湾海浜公園	2
52	8月11日	日	昭和薬大付属中・高校との文化交流会	6	昭和薬大付属中・高校	昭和薬大付属中・高校	0
53	8月16日	金	ホームパーティ (タイ国研修員)	7	老人ホーム緑樹苑	緑樹苑	0
54	8月17日	土	経塚自治会納涼盆踊り	5	経塚自治会	経塚公民館	0
55	8月17日	土	屋富祖自治会盆踊り	4	屋富祖自治会	屋富祖公民館前広場	1
56	8月18日	日	サッカー交流試合	11	県農業試験場	O I C グラウンド	0
57	8月30日	金	緑樹苑納涼まつり	26	老人ホーム緑樹苑	緑樹苑	1
58	8月31日	金	コロニーまつり	11	沖縄県厚生事業協会	リアビリティーズ うらそえ	0
59	9月1日	日	沖縄全島エイサーまつり	36	沖縄市観光課	沖縄市陸上競技場	9
60	9月16日	金	東急まつり	31	K D D 沖縄支社	那覇東急ホテル	0
61	9月20日	金	アセアン青年招聘・送別パーティ	16	沖縄県国際交流課	パシフィックホテル 沖縄	2
62	9月20日	金	ホームパーティ (タイ国研修員)	6	老人ホーム緑樹苑	緑樹苑	0
63	9月20日	金	地域交流パーティ	10	ありあけの里	ありあけの里	0
64	9月21日	土	バレーボール交流試合	15	前田小学校家庭学級	O I C 体育館	1
65	9月28日	土	ホームパーティ	13	Mr. & Mrs. Reasoner	Mr. Reasoner 宅	0
66	10月5日	土	O I C 第2回バスツアー	100	O I C	名護自然動植物園 他	6
67	10月6日	日	サッカー交流試合 & 文化祭	22	那覇西高校	那覇西高校	1
68	10月6日	日	沖縄市外国人日本文化1日体験デー	28	沖縄市役所市民交流室	沖縄こどもの国	0
69	10月11日	金	地域交流パーティ	21	ありあけの里	ありあけの里	0
70	10月12~13日	土・日	ビーチパーティ・キャンピング	2	N T T 全電通	今帰仁村	0

NO	月 日	曜 日	行 事 名	参加研 修員数	主催者/招待者名	場 所	職員等参 加人数
71	10月13日	日	タイ国研修員との懇談会	4	沖縄ガールスカウト	OIC食堂	1
72	10月18日	金	ホームパーティ(タイ国研修員)	11	老人ホーム緑樹苑	緑樹苑	0
73	10月20日	日	サッカー交流試合	12	沖縄県農業試験場	OICグラウンド	1
74	10月26日	土	緑樹会チャリティー芸能の夕	9	老人ホーム緑樹苑	沖縄市民会館	0
75	10月26日	土	地域友好祭	7	浦添市浦城自治会	比嘉眼科 4階ホール	0
76	10月27日	日	バレーボール交流試合	18	浦添市ジュニアリーダー	OIC体育館	1
77	10月29・30日	火・水	中国浙江省京劇観劇	16	沖縄県国際交流財団	沖縄コンベンションセンター 劇場	1
78	10月31日	木	生花講習会	12	OIC	OIC従業員食堂	1
79	11月 1日	金	第1回OICバーベキューパーティー	110	OIC	OIC食堂・中庭	全職員
80	11月 3日	日	子ども文化まつり	4	神森小学校PTA	神森小学校	0
81	11月 9日	土	カレーライスパーティー	7	内間小学校6年家庭学級	内間小学校体育館	1
82	11月12日	火	那覇市国際親善デー交流パーティー	40	那覇市	自治会館	2
83	11月15日	金	緑樹苑ホームパーティ	9	老人ホーム緑樹苑	老人ホーム緑樹苑	0
84	11月15日	金	EARTH SPIRIT CONCERT(喜納昌吉)	3	沖縄クリエイティブセンター	沖縄コンベンションセンター	1
85	11月16日	土	税務署施設見学及び交流会	6	北那覇税務署	北那覇税務署	2
86	11月16日	土	International Christian Women's Club	4	国際クリスチャン婦人会	ブラザ将校クラブ	0
87	11月17日	日	サッカー交流試合	15	地域サッカーチーム	OICグラウンド	1
88	11月18日	月	沖縄地区留学生等交流パーティー	85	留学生交流推進協議会	沖縄ランドキャッスル	4
89	11月20日	水	中国青年招聘知事レセプション	3	県青少年育成県民会議	パシフィックホテル 沖縄	2
90	11月24日	日	第1回OIC大運動会	90	OIC	OICグラウンド	80
91	11月28日	木	茶道教室	14	OIC	OIC和室	1
92	11月30日	土	生花交流会	3	沢岷婦人保護者の会	公文式沢岷南教室	0
93	11月30日	土	サッカー交流試合	12	琉球大学学生・職員	OICグラウンド	0
94	11.30~12.1	土・日	第7回沖縄県国際青年フォーラム	8	沖縄県青年団協議会	沖縄県青年会館	0
95	12月 5日	木	琉球おもろ流生花十周年記念祝賀会	2	吉田紫峯	ホテル西武オリオン	1
96	12月 7日	土	テニス交流試合	5	沖縄総合事務局 三浦	OICグラウンド	5
97	12月 8日	日	箏曲演奏会(チケット配布)	6	生田流箏曲沖縄筑紫会	沖縄コンベンションセンター	0
98	12月13日	金	那覇西ロータリークラブ忘年会	4	那覇西ロータリークラブ	沖縄ハーバービューホテル	1
99	12月14日	土	サッカー交流試合	10	琉球大学サッカーチーム	OICグラウンド	0
100	12月15日	日	サッカー交流試合	12	南風原町パフキンクラブ	OICグラウンド	0
101	12月20日	金	緑樹苑ホームパーティ	8	老人ホーム緑樹苑	老人ホーム緑樹苑	0
102	12月20日	金	クリスマスパーティー	8	Mr. & Ms. Reasoner	Mr. & Ms. Reasoner宅	0
103	12月21日	土	OIC年末バスツアー	82	OIC	沖縄本島中部	4
104	12月22日	日	浦添市サッカートーナメント	15	浦添市	OICグラウンド	1
105	12月22日	日	クリスマス礼拝&祝会	10	首里福音教会	首里福音教会	0
106	12月26日	木	生花講習会	4	OIC	OIC従業員食堂	1



NO	月 日	曜 日	行 事 名	参加研 修員数	主催者/招待者名	場 所	職員等参 加人数
107	1 2月26日	木	コザロータリークラブ忘年会	12	コザロータリークラブ	ブラザ沖繩	1
108	1 2月31日	火	第14回摩文仁火と鐘のまつり	27	沖繩平和公園建設協会	摩文仁 平和祈念公園	2
109	1 月 5日	日	浦添市サッカートーナメント	19	浦添市	浦添総合運動公園	2
110	1 月 7日	火	浦添消防本部一日消防長	1	浦添消防署	浦添消防署	1
111	1 月10日	金	O I C国際親善の夕べ	94	O I C	O I C食堂・中庭	全職員
112	1 月15日	水	クランドゴルフ交流	16	具志川商業高校PTA	具志川商業高校中庭	1
113	1 月16日	木	岩手青年の船交歓交流会	26	岩手県	那覇港停泊新さくら丸	2
114	1 月17日	金	緑樹苑ホームパーティー	7	老人ホーム緑樹苑	老人ホーム緑樹苑	0
115	1 月20日	月	給食交流会(日本語コース研修員)	14	牧港小学校	牧港小学校	2
116	1 月26日	日	サッカー交流試合	11	一般日系人チーム	O I Cグラウンド	0
117	1 月26日	日	グラウンドゴルフ&BBQパーティー	19	沖繩世界宣教教会	沖繩世界宣教教会	1
118	1 月29日	水	新春懇談会(韓国研修員)	3	日韓親善協会	O I C食堂	1
119	1 月31日	金	茶道教室	4	O I C	O I C和室	1
120	2 月 1日	土	サッカー交流試合	11	琉球大学サッカーチーム	O I Cグラウンド	1
121	2 月 8日	土	O I C冬季バスツアー	64	O I C	沖繩本島北部	4
122	2 月 9日	日	いけばな嵯峨流公開講座	2	いけばな嵯峨流	バレット市民劇場	0
123	2 月12日	水	交流夕食会	6	港川中学校PTA	O I C食堂	1
124	2 月14日	金	日本語スピーチコンテスト	19	O I C	O I C体育館	15
125	2 月15日	土	首里公民館まつり	7	首里公民館	首里公民館	0
126	2 月15~16日	土・日	ホームステイ・ホームビジット	17	浦添青年会議所	浦添市内一般家庭	3
127	2 月21日	金	O I C国際親善の夕べ	90	O I C	O I C食堂・中庭	全職員
128	2 月25日	火	那覇ロータリークラブ33周年祝賀会	32	那覇ロータリークラブ	沖繩都ホテル	4
129	2 月26日	水	生花講習会	7	O I C	O I C従業員食堂	1
130	2 月27日	木	浦添市国際交流協会創立祝賀会	21	浦添市国際交流協会	ホテルエッカ	3
131	2 月29日	土	サッカー交流試合	8	沖繩県農業試験場	O I Cグラウンド	1
132	3 月 7日	土	日本語弁論大会	2	(財)国際教育振興会	浦添市民会館	2
133	3 月 8日	日	バレーボール交流会	14	那覇西ローターアクトクラブ	O I C体育館	2
134	3 月13日	金	賛助会員の集い	5	沖繩県国際交流財団	パシフィックホテル沖繩	1
135	3 月14日	度	アジアミュージックイベント・イン・沖繩	30	(財)沖繩コンベンションセンター	沖繩コンベンションセンター	1
136	3 月15日	日	上上颯風コンサート	15	(財)沖繩コンベンションセンター	沖繩コンベンションセンター	0
137	3 月15日	日	ひなまつりお茶会	2	国際プロミス 球陽	沖繩こどもの国	0
138	3 月18日	水	ダンスパーティー	3	宜野湾青年会議所	若松ブラザ	1
139	3 月20日	金	バレーボール交流会	8	浦添中グリーンハイ地域PTA	O I C体育館	1
140	3 月21日	土	サッカー交流試合	10	琉大&県農試&昭和薬中	O I Cグラウンド	0
141	3 月24日	火	生花講習会	4	O I C	O I C従業員食堂	1
142	3 月25日	水	茶道教室	2	O I C	O I C和室	1

NO	月 日	曜 日	行 事 名	参加研 修員数	主 催 者 / 招 待 者 名	場 所	職員等参 加 人 数
143	3月28日	土	バドミントン交流会	1	研修員	OIC体育館	0
144	3月29日	日	沖縄市国際交流フェスティバル	2	フェスティバル 実行委員会	沖縄市市民会館	0

## 資料 - 10

## 平成3年度ホームステイ・ホームビジット入先一覧表(1.)

No	年月日	受入先氏名	職業	受入研修員	備考
1	3. 4. 27	Mr. Reasoner	牧師	フィジー 他 8名	ホームビジット
2	3. 8. 3 ~ 4	石川 義博	会社員	中国 1名	ホームステイ
3	3. 8. 3 ~ 4	糸嶺 篤秀	会社員	ガーナ 1名	ホームステイ
4	3. 8. 3 ~ 4	高良 宗男	会社員	インドネシア 1名	ホームステイ
5	3. 8. 3 ~ 4	中島 鉄臣	会社員	中国 1名	ホームステイ
6	3. 8. 3 ~ 4	中村 好徳	会社員	インドネシア 1名	ホームステイ
7	3. 8. 3 ~ 4	外間 完造	会社員	フィリピン 1名	ホームステイ
8	3. 8. 3 ~ 4	真喜屋 実範	会社員	シリア 1名	ホームステイ
9	3. 8. 3 ~ 4	与儀 善栄	会社員	ウルグアイ 1名	ホームステイ
10	3. 8. 3 ~ 4	根舛 秀安	会社員	セネガル 1名	ホームステイ
11	3. 8. 3 ~ 4	奥平 光博	会社員	トルコ 1名	ホームステイ
12	3. 8. 3 ~ 4	渡久地 保雄	会社員	アルゼンチン 1名	ホームステイ
13	3. 8. 3 ~ 4	金城 賢	会社員	エジプト 2名	ホームステイ
14	3. 8. 3 ~ 4	吉田 清	会社員	マレーシア 1名	ホームステイ
15	3. 8. 3 ~ 4	玉城 哲次	会社員	ペルー 1名	ホームステイ
16	3. 8. 3 ~ 4	友利 實朝	会社員	メキシコ 1名	ホームステイ
17	3. 8. 3 ~ 4	又吉 正信	会社員	ケニア 2名	ホームステイ
18	3. 8. 3 ~ 4	上江洲 徹也	会社員	トルコ 2名	ホームステイ
19	3. 8. 3 ~ 4	大城 昌博	会社員	ガイアナ 1名	ホームステイ
20	3. 8. 3 ~ 4	久志 栄次	会社員	インドネシア 1名	ホームステイ
21	3. 8. 3 ~ 4	仲松 勤	会社員	タイ 1名	ホームステイ
22	3. 8. 3 ~ 4	大城 弘	会社員	マダガスカル 1名	ホームステイ
23	3. 8. 3 ~ 4	嘉手苺 功	会社員	タイ 1名	ホームステイ
24	3. 8. 3 ~ 4	照屋 盛夫	会社員	スリランカ 1名	ホームステイ
25	3. 8. 3 ~ 4	浜比嘉 勇	会社員	中国 1名	ホームステイ
26	3. 8. 3 ~ 4	川畑 文夫	会社員	中国 1名	ホームステイ

平成3年度ホームビジット・ホームステイ受入先一覧表(2)

No	年 月 日	受 入 先 氏 名	職 業	受 入 研 修 員	備 考
27	3. 8.3 ~ 4	比屋根 方幸	会社員	韓 国 1名	ホームステイ
28	3. 8.3 ~ 4	金城 伸次	会社員	コロンビア 1名	ホームステイ
29	3. 8.3 ~ 4	玉城 聡	会社員	スリランカ 1名	ホームステイ
30	3. 8.3 ~ 4	島袋 明	会社員	ユーゴスラビア 1名	ホームステイ
31	3. 8.3 ~ 4	玉城 英人	会社員	中 国 1名	ホームステイ
32	3. 8.3 ~ 4	上原 貞男	会社員	バルバドス 1名	ホームステイ
33	3. 8.3 ~ 4	銘苺 功	会社員	エジプト 1名	ホームステイ
34	4. 2.15~16	比嘉 武宏	会社員	中 国 2名	ホームステイ
35	4. 2.15~16	安元 努	会社員	スリランカ 1名	ホームステイ
36	4. 2.15~16	松川 太作	会社員	スリランカ 1名	ホームステイ
37	4. 2.15~16	玉城 哲次	会社員	ペルー 1名	ホームステイ
38	4. 2.15~16	友利 寛朝	会社員	インドネシア 1名	ホームステイ
39	4. 2.15~16	仲本 彰	会社員	フィリピン 1名	ホームステイ
40	4. 2.15~16	根路銘 修	会社員	エジプト 1名	ホームステイ
41	4. 2.15~16	石原 昌徳	会社員	ジョルダン 1名	ホームステイ
42	4. 2.15~16	銘苺 初子	会社員	タイ 1名	ホームステイ
43	4. 2.15~16	仲田 朝清	会社員	インドネシア 1名	ホームステイ
44	4. 2.15~16	仲宗根 俊二	会社員	フィリピン 1名	ホームステイ
45	4. 2.15~16	宮平 光重	会社員	フィリピン・マレーシア 2名	ホームステイ
46	4. 2.16	新川 謙	会社員	シンガポール 1名	ホームビジット
47	4. 2.16	下地 満雄	会社員	キューバ 1名	ホームビジット
48	4. 2.16	積 一広		フィリピン 1名	ホームビジット
49					
50					
51					
52					
53					

平成3年度健康相談室科目別利用状況表

月	健康相談科目(延べ人数)												月別健康相談回数	平均受診者
	内科	外科	皮膚	整形	泌尿	眼科	耳鼻	婦人	歯科	精神	他	合計		
4	3(2)	0	0	3	0	0	2(1)	0	1(1)	1	0	10(4)	9回	1.1人/回
5	5(4)	0	8	5	0	0	6	0	0	0	0	24(4)	8回	3.0人/回
6	19(2)	3	4	7(3)	2	1	3	0	0	0	0	39(5)	8回	4.9人/回
7	28	3(1)	7	5	1(1)	1	3	0	0	1(1)	0	49(3)	9回	5.4人/回
8	14(3)	0(2)	3(1)	5	0(1)	0(1)	6	0	1	0(1)	0	29(9)	9回	3.2人/回
9	14(3)	2(1)	17(2)	9	1	1	5(1)	1	1	3	0	54(7)	8回	6.8人/回
10	6(1)	1	5	10	2	0	0	0(1)	0	2(2)	1	27(4)	9回	3.0人/回
11	12(2)	0	8	6	2	0	1	0	2	2	0	33(2)	8回	4.1人/回
12	11(3)	0	11	3	0	1	3(3)	0	1	0	0	30(6)	8回	3.8人/回
1	7(5)	0(1)	6(1)	1	2	0	2	0	0	2	0	20(7)	7回	2.9人/回
2	11(2)	1(2)	3(1)	4	0	0	0(2)	0	0	0	0	19(7)	6回	3.1人/回
3	3	0	2(1)	0(1)	0	0	4(1)	0	0	0	0	9(3)	8回	1.1人/回
合計	133(27)	10(7)	74(6)	58(4)	10(2)	4(1)	35(8)	1(1)	6(1)	11(4)	1	343(61)	97回	3.5人/回

注) 括弧内の数字は、通院した研修員の延べ人数である。

## 資料 - 1 2

平成3年度健康相談室地域別利用状況表

地域 月	地域別利用者数(延べ人数)							備考
	アジア	中近東	アフリカ	中南米	オセアニア	欧州	合計	
4	1	3	5	1	0	0	10	
5	6	11	5	2	0	0	24	
6	14	11	7	6	1	0	39	
7	18	6	14	11	0	0	49	
8	8	4	12	5	0	0	29	
9	19	11	13	11	0	0	54	
10	10	4	7	6	0	0	27	
11	9	9	4	11	0	0	33	
12	15	6	3	5	0	1	30	
1	7	5	5	3	0	0	20	
2	4	7	2	6	0	0	19	
3	1	2	4	2	0	0	9	
合計	112	79	81	69	1	1	343	

13-1. 平成3年度 入院研修員一覧表

国名	氏名	コース名	病名	入院期間	病院名
ブータン	MS. DECHEN ONGMO	パーソナルコンピュータ プログラミング (A)	急性胃腸炎	H 3. 4.21 ~ 24	浦添総合病院
ケニア	MR. DEDAN NDIRITU GATIKI	森林土壌	マラリア	H 3. 8.29 ~ 9. 2	琉球大学医学部 付属病院

13-2. 平成3年度 病気早期帰国研修員一覧表

国名	氏名	コース名	病名	早期帰国日	備考
エジプト	MR. HAMADA ABDEL MEGED HUSSIEN	公衆衛生技術者	鬱病	H.3. 7.27	
ケニア	MR. RICHARD NGUGI WAMBUGU	ビデオ制作	不安神経症	H.3.11.23	

平成3年度研修実施機関関係者に対する英語研修実績表

研修実施機関名	委託研修コース名	受講者数	実施期間	時間数	講師名	経費	主な教材
農林水産省那覇植物防疫事務所	植物検疫	11名	3. 5. 7 ~ 3. 8. 15	60時間	Mr. Perry Campbell Ms. Janet Bernard	507 千円	BREAKTHROUGH 2.
沖縄県農業試験場	サトウキビ栽培	17名	3. 9. 18 ~ 4. 1. 16	60時間	Ms. Nancy Webser, Ms. Linda Beltz	526 千円	Survival English Book 1 他 Side by side他
沖縄県公害衛生研究所	公衆衛生技術者	9名	3. 6. 19 ~ 3. 8. 28	42時間	Ms. Nancy Hada	384 千円	特になし
海上保安庁第11管区海上保安本部	海洋保全	16名	3. 7. 23 ~ 3. 10. 15	50時間	Ms. Diane Barnett	440 千円	ディスカッション用視聴覚教材 付テキスト
[ 合計 ]		53名		212時間		1,857 千円	



## 平成3年度施設利用実績表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	宿泊料収入
本部 私	集団研修員	1,237人日	2,124人日	2,413人日	2,647人日	2,616人日	2,566人日	2,717人日	2,419人日	2,580人日	2,562人日	2,271人日	1,351人日	27,503人日	¥102,900,800
	個別研修員	157人日	130人日	167人日	157人日	172人日	190人日	192人日	233人日	248人日	248人日	201人日	150人日	2,245人日	¥8,581,000
	他センター研修員	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	¥0
	(小計)	1,394人日	2,254人日	2,580人日	2,804人日	2,788人日	2,756人日	2,909人日	2,652人日	2,828人日	2,810人日	2,472人日	1,501人日	29,748人日	¥111,481,800
本人 私	UN研修員	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	0人日	¥0
	一般研修員	8人日	0人日	0人日	2人日	0人日	0人日	16人日	3人日	5人日	0人日	3人日	37人日	74人日	¥372,176
	(小計)	8人日	0人日	0人日	2人日	0人日	0人日	16人日	3人日	5人日	0人日	3人日	37人日	74人日	¥372,176
[研修員合計]		1,402人日	2,254人日	2,580人日	2,806人日	2,788人日	2,756人日	2,925人日	2,655人日	2,833人日	2,810人日	2,475人日	1,538人日	29,822人日	¥111,853,976
本人 私	一般外国人	0人日	0人日	0人日	0人日	12人日	0人日	0人日	0人日	6人日	0人日	12人日	5人日	35人日	¥180,216
	一般日本人	9人日	11人日	7人日	13人日	4人日	2人日	15人日	7人日	7人日	0人日	30人日	72人日	177人日	¥909,630
[一般客合計]		9人日	11人日	7人日	13人日	16人日	2人日	15人日	7人日	13人日	0人日	42人日	77人日	212人日	¥1,089,846
[総計]		1,411人日	2,265人日	2,587人日	2,819人日	2,804人日	2,758人日	2,940人日	2,662人日	2,846人日	2,810人日	2,517人日	1,615人日	30,034人日	
月別宿泊可能数		3,000人日	3,100人日	3,000人日	3,100人日	3,100人日	3,000人日	3,100人日	3,000人日	3,100人日	3,100人日	2,900人日	3,100人日	36,600人日	
入館率		47.05%	73.06%	86.23%	90.94%	90.45%	91.93%	94.84%	88.73%	91.81%	90.65%	86.79%	52.10%	82.06%	
月別宿泊利用収入		¥5,243,968	¥8,400,322	¥9,607,096	¥10,526,530	¥10,562,732	¥10,466,892	¥11,224,646	¥10,127,184	¥10,679,200	¥10,487,200	¥9,468,490	¥6,149,562		¥112,943,822
その他施設利用収入		¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0	¥0		¥0
施設利用総収入		¥5,243,968	¥8,400,322	¥9,607,096	¥10,526,530	¥10,562,732	¥10,466,892	¥11,224,646	¥10,127,184	¥10,679,200	¥10,487,200	¥9,468,490	¥6,149,562		¥112,943,822

## 平成3年度施設等整備事業実績表

	事項名	金額(千円)	請負業者名	整備期間	整備の内容
管 理 ・ 厚 生 施 設 関 係	日本語室移転研修別館改修工事	2,060	(株)国場組	3.7.30~3.9.10	日本語室移転に伴う研修別館の改修工事
	屋根付き渡り廊下設置工事	1,451	(株)美芸工房	3.8.1~3.8.31	日本語室移転に伴う屋根付き渡り廊下の設置工事
	研修別館空調機の購入	1,060	(有)イチゴ	3.9.25	日本語室移転に伴う空調機の新規購入
	建物外壁塗装工事	40,400	(株)国場組	3.11.1~4.2.27	OIC外壁の塗装
	旧L.L教室改修工事	3,811	(株)国場組	4.1.26~4.2.29	旧L.L教室を講師控室に改修
	旧L.L教室空調機の購入	1,339	国和設備工業(株)	4.1.27	旧L.L教室の講師控室改修に伴う空調機の購入
	汚水配水管改修工事	1,163	(株)大宮設備	4.2.6~4.2.14	北側斜面の汚水配水管破損を改修
	(小計)	51,284			
研 修	視聴覚技術研修用機材の整備	8,250	ソニー(株)	4.3.30	端末増設に伴う接続機器の整備
	視聴覚技術研修用機材の整備	5,010	日本ビクター(株)	4.3.30	視聴覚研修コースに使用する機材の整備
	(小計)	13,260			
	(合計)	64,544			

注) 1,000千円以下の事業は除外した。

平成3年度視察及び見学者数集計表

年 月	視察者・見学者数	主 な 視 察 者
3年 4月	515人	
5月	421人	
6月	791人	九州市長会、外務省技術協力課長、衆議院沖縄北方問題特別委員会、浜松市議員（8名）
7月	723人	姫路市議員（13名）、衆議院外務省委員会委員（15名）
8月	667人	外務省国内広報課長、
9月	522人	
10月	549人	
11月	725人	インドネシア、中国、タイ大使及び公使
12月	574人	迎賓館館長、ソ連アカデミー所長夫妻、
4年 1月	493人	大蔵省理財局国庫課長、沖縄開発庁課長補佐、大蔵省検査課長、郵政省通信政策局国際協力課長
2月	758人	枚方市議員（3名）、延岡市議員（6名）
3月	719人	外務省技術協力課長
[合 計]	7,457人	
60年度	9,177人	
61年度	11,153人	
62年度	8,750人	
63年度	8,070人	
平成元年度	8,764人	
2年度	7,084人	
[累 計]	60,455人	

注) 日曜日、祝祭日を除き、1日平均31名の視察・見学者がある。

## 平成3年度集団・特設研修コース実施概要

	ページ
1. 情報処理要員養成コース (マネージメント) . . . . .	3 2
2. 情報処理要員養成コース (システムエンジニア (A)) . . . . .	3 4
3. 情報処理要員養成コース (システムエンジニア (B)) . . . . .	3 6
4. 情報処理要員養成コース (オンラインシステム設計 (A)) . . . . .	3 8
5. 情報処理要員養成コース (オンラインシステム設計 (B)) . . . . .	4 0
6. 情報処理要員養成コース (データベースシステム設計 (A)) . . . . .	4 2
7. 情報処理要員養成コース (データベースシステム設計 (B)) . . . . .	4 4
8. 情報処理要員養成コース (インストラクタ) . . . . .	4 6
9. 情報処理要員養成コース (シニアプログラマ) . . . . .	5 8
10. 情報処理要員養成コース (パーソナルコンピュータ プログラミング (A)) . . . . .	5 0
11. 情報処理要員養成コース (パーソナルコンピュータ プログラミング (B)) . . . . .	5 2
12. 情報処理要員養成コース (パーソナルコンピュータ・ネットワーク) . . . . .	5 4
13. サウンドスライド制作コース . . . . .	5 6
14. ビデオ制作コース . . . . .	5 8
15. 視聴覚技術コース . . . . .	6 0
16. 日本語専修 (A) コース . . . . .	6 2
17. 日本語専修 (B) コース . . . . .	6 4
18. 航海技術コース . . . . .	6 6
19. サトウキビ栽培コース . . . . .	6 8
20. 公衆衛生技術者コース . . . . .	7 0
21. 熱帯農林資源の有効利用コース . . . . .	7 2
22. 海洋保全コース . . . . .	7 4
23. 臨床看護実務コース . . . . .	7 6
24. 森林土壌コース . . . . .	7 8
25. 植物検疫 (ミバエ類殺虫技術) コース . . . . .	8 0

平成3年度 集団コース実施概要

センター名：沖縄国際センター

1. コース名、和文・英文、コースNo.、コード  
 コース名：(和文) 情報処理要員養成 (マネージメント)  
 (英文) Information Processing Personnel  
 (Management)  
 コースNo.、コード： 91A0300
2. 研修期間 (うち日本語期間等)  
 平成3年8月29日～同年10月25日 (9/2～9/11日本語研修)
3. 研修目的  
 経験1年以内の管理者又はこれから管理者になることが予定されている者を対象に、情報処理システムの計画、立案、情報処理システムの運用管理に関する一般的事項を修得させ、システムの運用管理、管理能力を養成する。
4. 到達目標  
 1) 情報処理システムの開発工程、及び導入計画を理解する。  
 2) 情報処理システムの (開発プロジェクトを遂行・管理するため) の基礎知識を修得する。  
 3) 情報処理システム部門の運用管理業務を遂行。
5. 研修対象者、資格要件  
 1) 大学卒業または大学卒業と同等レベルである者  
 2) 管理者としての経験が1年未満である者  
 3) システム開発又はメンテナンス経験1年以上  
 4) 年齢45才以下である者  
 5) 英語が堪能である者
6. プログラム概要  
 1) 研修項目  
 コース運営計画 (オリエンテーション、見学実習 他)、基礎教養科目 (システム開発概論 他)、管理者教育 (プロジェクト管理ゲーム 他)  
 2) 研修方法 (英語率)  
 講義 38% (100%)  
 実習 42% (80%)  
 研修旅行、見学 20%  
 カントリーレポート 発表会  
 3) スケジュール  
 オリエンテーション 3/9/2～3/9/6  
 日本語研修 3/9/2～3/9/11 夜間 (12時間)  
 集団研修 3/9/9～3/10/22  
 個別研修

7. コース設立の背景

昭和59年3月に国際協力事業団に設置された「情報処理要員養成コースに係る運営委員会」の答申に基づき、アセアン諸国を中心とする開発途上国においてコンピュータを利用した情報処理分野に携わる要員の技術向上を図るための集団研修コースとして、昭和60年度にOICに設立された。

8. 受入実績

[今年度]

定員	割当国	応募人数	応募国数	受入人数	受入国数
14名	14ヶ国	26名	(11ヶ国) (割当外あり)	10名	10ヶ国

[今年度までの実績]

設立年度	実施回数	受入人数	受入国数
60年度	7回	102名	31ヶ国

今年度割当国：

バングラデシュ、中国、マレーシア、インドネシア、シンガポール、フィリピン、タイ、韓国、エジプト、アルジェリア、モロッコ、ナイジェリア、ザンビア、ブラジル

早期帰国等：無し

9. 実施体制

主な受入先： 沖縄国際センター

委託研修：

委託先： 日本電信電話株式会社、富士通株式会社

研修指導者： 吉田 勤

担当者：センター研修課 飛田賢治 研修監理員：片岡千繪  
 : 管理課 清水保彦

13. 受入機関組織図等（協力機関も含む）
- |       |           |      |       |
|-------|-----------|------|-------|
| 責任者   | 吉田 勤      | 担当部長 | (NTT) |
| 担任指導者 | (主) 大園 康  |      | (NTT) |
|       | (副) 猪野屋 聡 |      | (富士通) |

10. 前年度評価、問題点

研修員からは、プロジェクト管理シミュレーションゲームで、できるだけ高得点をあげるために、2度実施すべき期間を延長すべきとの要望がある。

11. 対処方針、今年度の特徴、改善点

プロジェクト管理シミュレーションの実施方法及び実施手順は、従来どおり1日かけて詳細に説明することとし、本科目の目的は、システム開発の適切な立案、不測の事態が発生した場合に適切な対策をとることにより、シミュレーションで高得点をとることではなく、シミュレーションをとおしてのプロジェクト管理の失敗もまた、よい経験になることを理解させる。

12. 今年度評価、所見、問題点及び改善すべき課題（目的達成、研修成果、プログラム、研修員、コース運営）

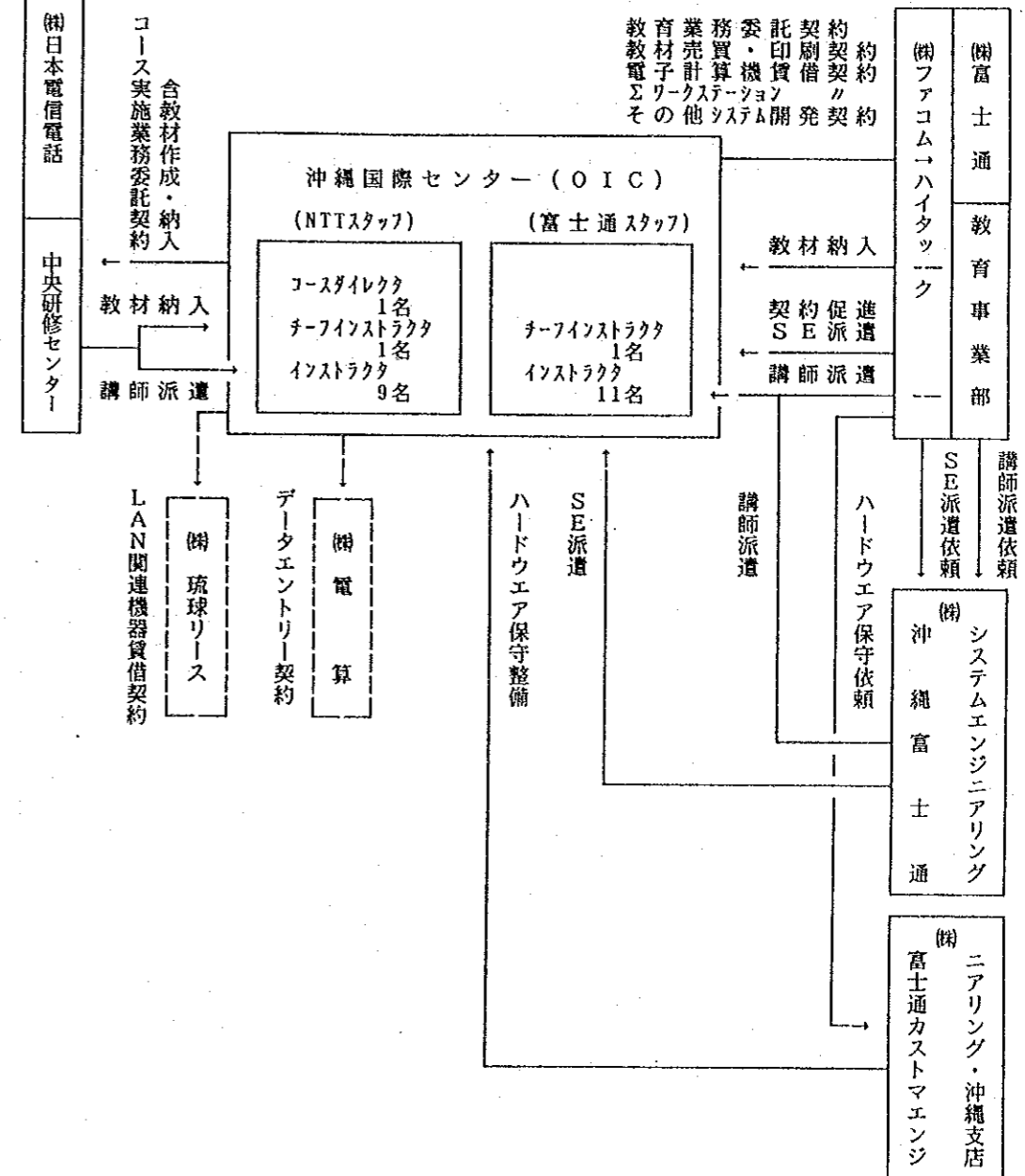
所見： 本コースは、情報処理部門のマネジャーを対象として、システム開発の企画、立案及び管理技法などを研修するコースである。マネジャーが長期間職場を空けられないことを考慮し、研修期間は2か月と、他の情報処理要員養成コースと比して短い。

本コースは、昭和60年に開設以来7回を実施し、研修プログラムは本コースとしてはほぼ完成の域にある。コース期間が短いと指摘する研修員もいるが、必要最低限の内容は含まれており、コンピュータメーカー等で行われているマネジャー研修の期間も2～3週間であることから、現在の研修期間は妥当と考えている。但し、今年は台風が多く、コース期間中1.5日間休講を余儀なくされ、その分を時間外に実施したり、ケーススタディ科目を振り替えて実施したため、来年度は、台風等による休講に柔軟に対応できるよう、ケーススタディのような科目をさらに一日程度追加するよう検討したい。

本コースの研修員は、システム経験に差があり、経験の少ない研修員に講義や演習の内容を理解させることに時間を要し、グループ演習を円滑に行うことに工夫を要した。来年度からは、研修員応募資格要件のシステム開発経験を1年以上から3年程度以上に変更することを検討する予定である。

- 課題： 1) ケーススタディ科目の1日程度の追加  
2) 研修員応募資格要件のシステム開発経験を1年以上から3年程度以上に変更

〈受入機関組織図及びO I Cとの関係図〉



平成3年度 集団コース実施概要

センター名：沖縄国際センター

1. コース名、和文・英文、コースNo.、コード  
 コース名：(和文) 情報処理要員養成 (システムエンジニア(A))  
 (英文) Information Processing Personnel  
 (System Engineer (A)  
 For Senior System Analyst/Designer)

コース No.、コード：91A0306

2. 研修期間(うち日本語期間等)

平成3年5月9日～同年8月23日(5/13～7/29 日本語研修)

3. 研修目的

オンライン・データベース・システム設計、開発に必要な基礎知識及び技法を総合的に修得させ、システム開発の指導的役割を果し得るシステム開発のプロジェクト・リーダー又はサブリーダー(SE)を育成する。

4. 到達目標

- 1) システム開発のプロジェクトを管理できること。
- 2) システムの設計及び業務処理の設計ができること。
- 3) 業務処理のプログラム設計及びプログラミング工程においてプログラマの技術的指導ができること。
- 4) システムの機能、品質を評価できること。

5. 研修対象者、資格要件

- 1) 大学卒業者もしくは同等の学力を有する者
- 2) 2～5年のシステム開発経験を有し、かつCOBOL、FORTRAN、PL/I等の高級言語のいずれかを用いて3年以上のプログラミング経験があり、COBOLによるプログラミングができる者
- 3) 年齢35才以下の者
- 4) 英語の読解及び会話に十分な能力がある者

6. プログラム概要

1) 研修項目

- |           |       |
|-----------|-------|
| ・システム設計開発 | ・事例紹介 |
| ・システム評価   | ・特別講義 |
| ・総合実習     | ・見学実習 |

2) 研修方法(英語率)

講義	48%	(100%)
実習	40%	(100%)
研修旅行、見学等 カトリレポート発表会	12%	

3) スケジュール

初セッション	3/5/13	～	3/5/17	
日本語研修	3/5/13	～	3/7/29	一般(50時間)
集団研修	3/5/20	～	2/8/20	
個別研修				

7. コース設立の背景

昭和59年3月に国際協力事業団に設置された「情報処理要員養成コースに係る運営委員会」の答申に基づき、アセアン諸国を中心とする開発途上国においてコンピュータを利用した情報処理分野に携わる要員の技術向上を図るための集団研修コースとして、昭和61年度に沖縄国際センターに設立された。

8. 受入実績

[今年度]

定員	割当国	応募人数	応募国数	受入人数	受入国数
10名	12ヶ国	27名	10ヶ国	9名	9ヶ国

[今年度までの実績]

設立年度	実施回数	受入人数	受入国数
61年度	6回	61名	15ヶ国

今年度割当国：

中国、インドネシア、大韓民国、マレーシア、フィリピン、タイ、エジプト、トルコ、象牙海岸、ケニア、コスタ・リカ、ユーゴスラヴィア

早期帰国等：なし

9. 実施体制

主な受入先： 沖縄国際センター

委託研修：

委託先： 日本電信電話株式会社、富士通株式会社

研修指導者： 吉田 勤

担当者：センター研修課 大喜多隆司 研修監理員：大城美世子

：管理課 清水保彦

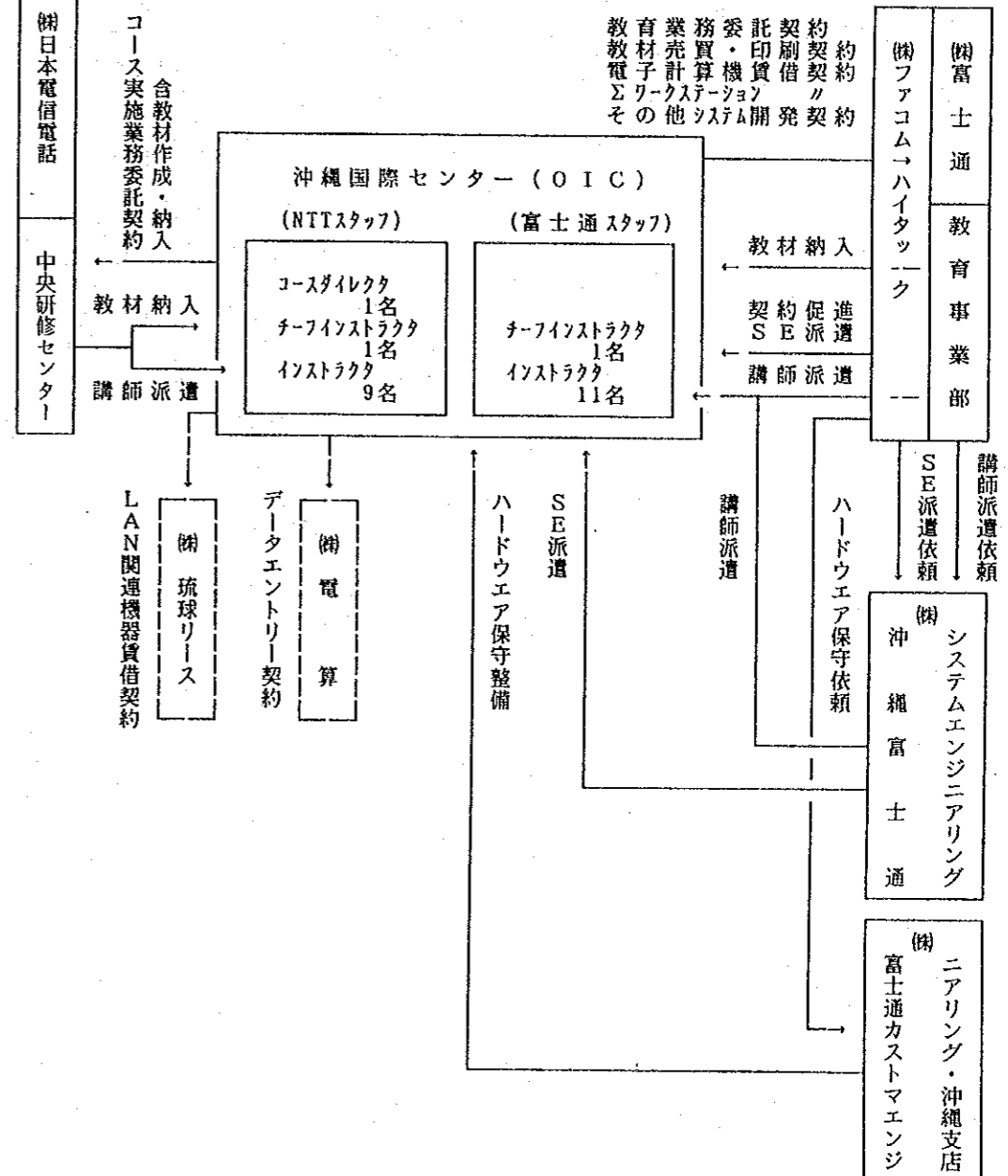
10. 前年度評価、問題点  
 上級システムアナリストとして必要な、システム分析やシステム設計科目を強化し、プログラミング科目は削除すべきとの要望が何年か続いていた。
11. 対処方針、今年度の特徴、改善点  
 前年度まではシステム開発の全工程に必要な技術を教えることがシステムエンジニアコースの目的であったが、今年度からテーマを絞り、システム分析、システム設計及び評価技法を中心とするコース内容に変更するとともに、研修員がより参加し易いように期間も短くした。

12. 今年度評価、所見、問題点及び改善すべき課題（目的達成、研修成果、プログラム、研修員、コース運営）  
 所見：本コースは、研修員の過去の評価に基づいて昨年度研修内容の見直しを行った結果、今年度よりカリキュラムを大幅に変更するとともに、研修期間も6ヶ月から3.5ヶ月に短縮された。具体的には、プログラミング科目及び実際にシステム開発実習を行う『総合実習』が削除され、システム分析及び設計にかかわる科目（システム開発における上流工程に関連する科目）が大幅に強化された。これより、従来のコースに比してより上位の応募者を対象として参加させやすくすると共に、オンライン・システム設計コースとの差別化を明確にした。今回は、第1回の実施であり、研修員のレベル・経験もまちまちであったため、評価に若干のばらつきがあったが、全体としてカリキュラム構成・講義・テキスト・研修期間についても大きな批判はなく好評であったと感じた。特に、システム開発プロジェクトや性能設計作業をシミュレートするシミュレーション・ソフトウェアは非常に好評であった。基礎講義と実習の時間配分にかかわる研修員の意見（後者にもっと比重を置いてほしい）に関しては、前提知識が必ずしも十分ではない研修員が存在することや、基礎講義科目の重要性から、現状でやむを得ないと思われる。研修員も非常に熱心でかつまじめに研修に取り組み、生活上も何ら問題はなかった。全体として、非常にまとまった良いコースであると思う。

課題：最新技術の動向やデータ通信等研修員ニーズの高い科目については、今回初めての試みであり（従来はレクリエーション活動）、今後慣れていくにしたがって、うまく運営されていくと思う。日本語夜間講習の期間については、前年度コースと同じ長さとしたことにより全体研修期間に比し相対的に長くなってしまったので、次回コースからは短縮することとする。

13. 受入機関組織図等（協力機関も含む）  
 責任者 吉田 勤 担当部長（NTT）  
 担任指導者（正）藤田 雅範（NTT）  
 （副）重信 洋一（富士通）

〈受入機関組織図及びOICとの関係図〉





平成3年度 集団コース実施概要

センター名：沖縄国際センター

1. コース名、和文・英文、コースNo.、コード  
 コース名 : (和文) 情報処理要員養成 (システム・エンジニア(B))  
 (英文) Information Processing Personnel  
 (System Engineer (B))  
 コースNo.、コード : 91A0307
2. 研修期間 (うち日本語期間等)  
 平成3年10月31日～平成4年2月23日 (3/11/5～3/12/11 日本語研修)
3. 研修目的  
 オンラインデータベースシステムの設計、開発に必要な基礎知識及び技法を総合的に修得させ、システム開発の指導的役割を果し得るシステム開発のプロジェクト・リーダー又はサブリーダー (SE) を育成する。
4. 到達目標  
 1) システム開発のプロジェクトリーダー又はサブリーダーを育成する事  
 2) システム見積り及び評価技法を用いたシステム導入計画から設計開発までの一連の作業を理解・修得せしめる事  
 3) 与えられた条件の下でのオンラインシステム設計及び開発技法を修得せしめる事
5. 研修対象者、資格要件  
 1) 大学卒業者でかつシステム開発経験3年以上の者  
 2) COBOL言語を用いて3年以上のプログラミング経験を有する者  
 3) 年齢35才以下の者  
 4) 英語の読解及び会話の能力が十分にある者
6. プログラム概要  
 1) 研修項目  
 ・ システム設計基礎                      ・ 事例紹介  
 ・ システム設計                              ・ 特別講義  
 ・ システム評価  
 ・ 総合実習
- 2) 研修方法 (英語率)  
 講義                                              48% ( 100%)  
 実習                                              40% ( 100%)  
 研修旅行、見学                              1.2%  
 カトリレポート発表会
- 3) スケジュール  
 オリエンテーション                      3/11/5～3/11/9  
 日本語研修                                      3/11/5～3/12/11 一般 (50時間)  
 集団研修                                      3/11/11～4/2/20  
 個別研修

7. コース設立の背景

昭和59年3月に国際協力事業団に設置された「情報処理要員養成コースに係る運営委員会」の答申に基づき、アセアン諸国を中心とする開発途上国においてコンピュータを利用した情報処理分野に携わる要員の技術向上を図るための集団研修コースとして、昭和61年度に沖縄国際センターに設立された。

8. 受入実績  
 [今年度]

定員	割当国	応募人数	応募国数	受入人数	受入国数
9名	11ヶ国	26名	12ヶ国	12名 <sup>注)</sup>	12ヶ国 <sup>注)</sup>

[今年度までの実績]

設立年度	実施回数	受入人数	受入国数
61年度	6回	71名	19ヶ国

注) うち3名は来日中止となったため、来日研修員は9ヶ国9名

今年度割当国：

中国、インド、インドネシア、韓国、マレーシア、フィリピン、タイ、エジプト、シリア、アルゼンティン、ブラジル

早期帰国等：なし

9. 実施体制

主な受入先： 沖縄国際センター

委託研修：

委託先： 日本電信電話株式会社、富士通株式会社

研修指導者： 吉田 勤

担当者：センター研修課 大喜多隆司      研修監理員：安村秀夫  
 : 管理課 清水保彦

10. 前年度評価、問題点

上級システムアナリストとして必要なシステム分析や、システム設計科目を強化し、プログラミング科目は削除すべきとの要望が出されていた。

11. 対処方針、今年度の特徴、改善点

前年度まではシステム開発の全工程に必要な技術を教えることがシステムエンジニアコースの目的であったが、今年度からテーマを絞り、システム分析、システム設計及び評価技法を中心とするコース内容に変更するとともに、研修員がより参加し易いように期間も短くした。

12. 今年度評価、所見、問題点及び改善すべき課題（目的達成、研修成果、プログラム、研修員、コース運営）

本コースについては、昨年度、研修内容・研修期間に大幅な見直しを加えられ、今回で2回目の実施となるが、前回に引き続き、全体的には非常に好評であり問題はないと思われた。シミュレーション科目も同様に人気科目であった。

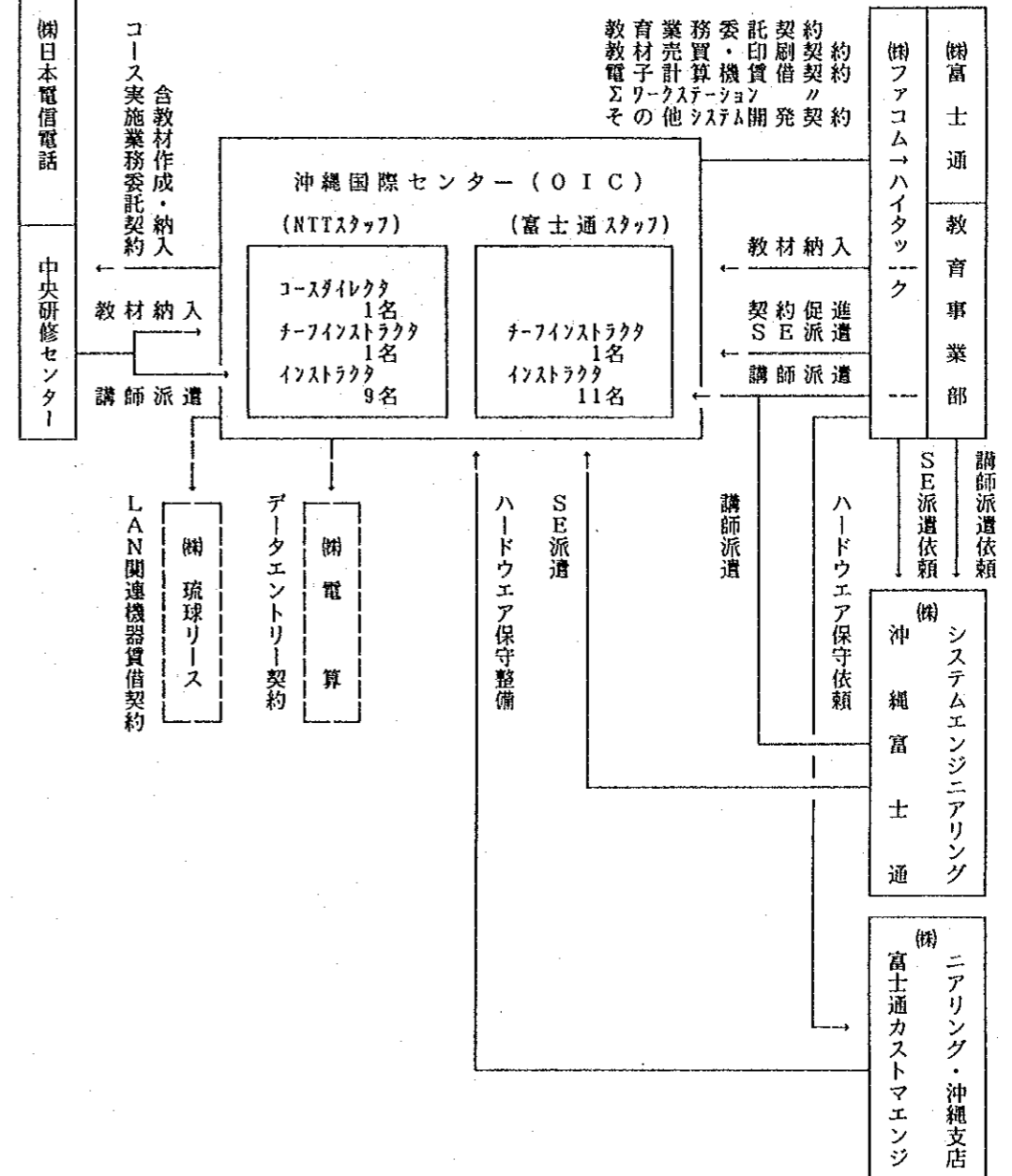
実習時間については（すべての情報処理コースにあてはまるが）研修員のレベル差に負うところが大きく、一概に延長することが妥当とは思えない。

研修員は、全体的におとなしく、非常に真面目な人が多かった。

課題：最新技術動向の紹介やデータ通信科目の充実

13. 受入機関組織図等（協力機関も含む）  
 責任者 吉田 勤 担当部長（NTT）  
 担任指導者 （主）山口 昌考（NTT）  
 （副）数井 宏（富士通）

〈受入機関組織図及びOICとの関係図〉



平成3年度 集団コース実施概要

センター名：沖縄国際センター

1. コース名、和文・英文、コースNo、コード  
 コース名：(和文) 情報処理要員養成 (オンライン・システム設計(A))  
 (英文) Information Processing Personnel  
 (Online System Design (A))  
 コースNo、コード：91A0309
2. 研修期間 (うち日本語期間等)  
 平成3年 5月 9日～同年10月12日 ( 5/13 ～7/19日本語研修)
3. 研修目的  
 オンライン・システムの機能、設計、技法及び導入の方法について  
 修得させ、オンライン・システムの設計者を育成する。
4. 到達目標  
 1) システム開発のプロジェクト管理の知識を有する。  
 2) 与えられた要件を基に、オンライン・システムの設計開発ができる。  
 3) システムの機能及び品質を評価できる。
5. 研修対象者、資格要件  
 1) 大学卒または同等の学力を有する者  
 2) 1～5年の情報処理システムの開発・メンテナンスの経験を有し  
 かつCOBOL、FORTRAN、PL/1等の高級言語を用いて3年以上のプログラ  
 ミング経験があり、COBOL によるプログラミングができる者  
 3) バッチ・システムの設計経験を有する者  
 4) 年齢35才以下の者  
 5) 英語の読解及び会話に十分な能力がある者
6. プログラム概要  
 1) 研修項目  
 ・システム設計科目                   ・事例紹介  
 ・システム評価科目                   ・特別講義  
 ・総合実習                            ・見学実習
- 2) 研修方法 (英語率)  
 講義                                   35% ( 100%)  
 実習                                   50% ( 100%)  
 研修旅行、見学                   15% ( 87%)  
 カントリー・レポート発表会
- 3) スケジュール  
 オリエンテーション   3 / 5/13 ～ 3 / 5/17  
 日本語研修           3 / 5/13 ～ 3 / 7/19 一般 (40時間)  
 集団研修           3 / 5/20 ～ 3 /10/ 9  
 個別研修

7. コース設立の背景

昭和59年3月に国際協力事業団に設置された「情報処理要員養成  
 コースに係る運営委員会」の答申に基づき、アセアン諸国を中心と  
 する開発途上国においてコンピュータを利用した情報処理分野に携  
 わる要員の技術向上を図るための集団研修コースとして、昭和61  
 年度にO I Cに設立された。なお、本オンライン・コースは平成2  
 年度より(A)、(B) の2コースに分けて実施されている。

8. 受入実績

[今年度]

定員	割当国	応募人数	応募国数	受入人数	受入国数
15名	15ヶ国	25名	14ヶ国	14名	14ヶ国

[今年度までの実績]

設立年度	実施回数	受入人数	受入国数
61年度	6回	85名	25ヶ国

今年度割当国：

中国、インドネシア、大韓民国、マレーシア、フィリピン、タイ、  
 エジプト、シリア、トルコ、アラブ首長国連邦、コートジボアール、  
 アルゼンティン、ウルグアイ、バルバドス

早期帰国等： なし

9. 実施体制

主な受入先： 沖縄国際センター

委託研修：

委託先： 日本電信電話株式会社、富士通株式会社

研修指導者： 吉田 勤

担当者：センター研修課 太田 雅章 研修監理員：玉那覇弘子

：管理課 清水保彦

13. 受入機関組織図等（協力機関も含む）  
 責任者 吉田 勤 担当部長（NTT）  
 担任指導者 （主）平田 幸路（NTT）  
 （副）宮城 直美（富士通）

10. 前年度評価、問題点

- 1) プログラミング関連科目の研修項目を削除して欲しいとの要望が一部研修員より出された。
- 2) 研修期間が長すぎるとの評価が有り。
- 3) 講義に関し、OHPの棒読みの進行が多く、もっと討論や発言機会を与えて欲しいとの要望有り。
- 4) 一部講師の英語力・プレゼンテーション力に関し、不満が表明された。

11. 対処方針、今年度の特徴、改善点

- 1)、2)、3) 共、研修員の希望にそってカリキュラムを構成した。
- 4) 鋭意、レベルアップに務めた。

12. 今年度評価、所見、問題点及び改善すべき課題（目的達成、研修成果、プログラム、研修員、コース運営）

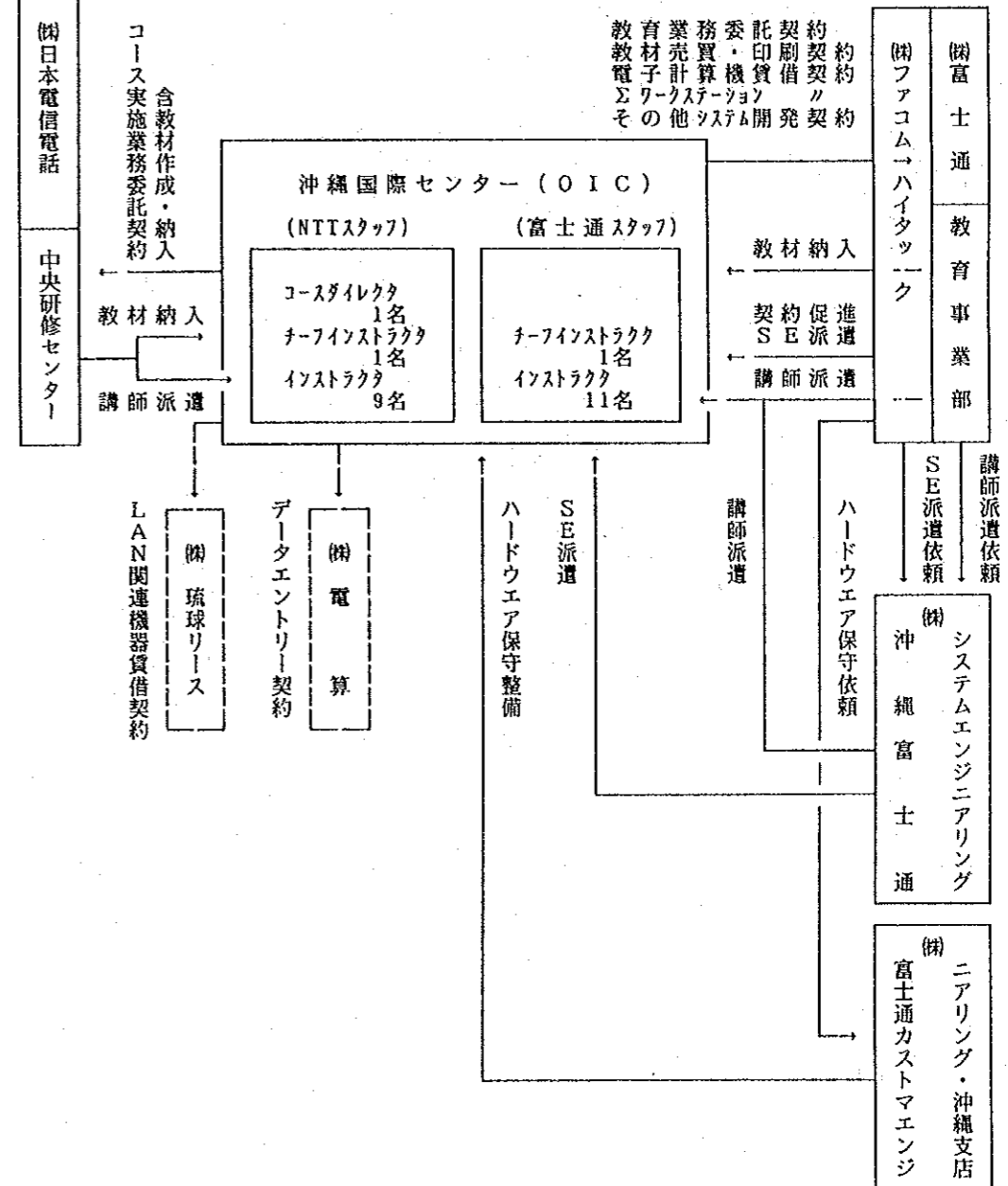
所見：

- 1) 研修日程については完成度の高いものであり、研修期間、レベル、目的達成度、講義方法等は8割以上の研修員が高い評価をしている。今後大きな見直しは必要ないと考えられる。
- 2) 研修員間のスキル差が大きいことが最も大きな障害になったようであるが、選考時には必ずしも全応募者から必要な資料が提出されているわけではなく、ある程度避けられない問題であったと思われる。

課題：

特になし

〈受入機関組織図及びOICとの関係図〉



平成3年度 集団コース実施概要

センター名：沖縄国際センター

1. コース名、和文・英文、コースNo.、コード  
 コース名：(和文) 情報処理要員養成 (オンライン・システム設計(B))  
 (英文) Information Processing Personnel  
 (Online System Design(B))  
 コースNo.、コード：90A0309
2. 研修期間 (うち日本語期間等)  
 平成3年10月17日～平成4年3月30日 (10/21～1/14日本語研修)
3. 研修目的  
 オンラインシステムの機能、設計、技法及び導入の方法について修得させ、オンラインシステムの設計者を育成する。
4. 到達目標  
 1) オペレーティング・システムの使用法及びオンラインシステムの機能を理解する。  
 2) 与えられた条件の下でオンライン・システムの設計開発ができる。
5. 研修対象者、資格要件  
 1) 大学卒で情報処理システムの開発・メンテナンス経験1～5年の者  
 2) COBOL、FORTRAN、PL/1等の高級言語のいずれかを用いて3年以上のプログラミング経験を有し、COBOLによるプログラミングができる者  
 3) バッチシステムを設計した経験がある者  
 4) 年齢35才以下の者  
 5) 英語の読解及び会話に十分な能力がある者
6. プログラム概要  
 1) 研修項目  
 ・基礎教養課目 ・DC基礎 ・DC設計  
 ・最新のコンピュータ動向 ・システム開発 他
- 2) 研修方法 (英語率)  
 講義 35% (100%)  
 実習 56% (100%)  
 研修旅行、見学 9%  
 カントリーレポート 発表会
- 3) スケジュール  
 初インテュン 3/10/21～3/10/25  
 日本語研修 3/10/21～4/1/14 一般 (50時間)  
 集団研修 3/10/28～4/3/27  
 個別研修

7. コース設立の背景  
 昭和59年3月に国際協力事業団に設置された「情報処理要員養成コースに係る運営委員会」の答申に基づき、アセアン諸国を中心とする開発途上国においてコンピュータを利用した情報処理分野に携わる要員の技術向上を図るための集団研修コースとして、昭和61年度にOICに設立され、さらに本年度から(A)、(B)2コース実施されることとなった。

8. 受入実績  
 [今年度]

定員	割当国	応募人数	応募国数	受入人数	受入国数
12名	13ヶ国	18名	11ヶ国	11名	11ヶ国

[今年度までの実績]

設立年度	実施回数	受入人数	受入国数
61年度	2回	24名	18ヶ国

今年度割当国：

インドネシア、インド、大韓民国、マレーシア、フィリピン、タイ、エジプト、トルコ、イエメン、ケニア、ブラジル、ヴェネズエラ、パラグアイ

早期帰国等： 特になし

9. 実施体制

主な受入先： 沖縄国際センター

委託研修：

委託先： 日本電信電話株式会社、富士通株式会社

研修指導者： 吉田 勤

担当者：センター研修課 飛田賢治 研修監理員：玉那覇弘子

：管 理 課 清水保彦

13. 受入機関組織図等(協力機関も含む)  
 責任者 吉田 勤 担当部長 (NTT)  
 担任指導者 (主) 大橋 茂博 (NTT)  
 (副) 山田 義也 (富士通)

10. 前年度評価、問題点

- 1) テスト工程科目が設計科目として前半に実施されていた。
- 2) システム性能評価科目(GPSSシミュレーション)を強化すべきとの評価が得られた。

11. 対処方針、今年度の特徴、改善点

- 1) テスト工程科目をシステム開発工程に合せて、研修の後半に実施し、より体系的な技術の修得を図った。
- 2) GPSSシミュレーション科目を1日延長した。

12. 今年度評価、所見、問題点及び改善すべき課題(目的達成、研修成果、プログラム、研修員、コース運営)

所見：本コースは、今後コンピュータのオンライン化を予定する設計者を対象に、オンラインシステムの機能、設計技術および導入方法を研修するコースである。研修内容は、システム設計科目、システム評価科目、システム評価科目及び総合実習の3段階からなる。本コースは、オンラインシステム設計コースとしては、昭和60年度の開設以来7回を終了し、研修内容の大枠については、ほぼ固まっている。昨年度からの変更点としては、実際のシステム開発工程の理解を深めるために、テスト工程科目を従来設計科目として前半に実施していたのを、後半の総合実習の直前に移動したこと、ならびに、システム性能評価科目を強化するために、GPSSシミュレーションの科目を1日延長したこと等である。次回のコースは、本コースでは特に要望としては出なかったものの、オンラインシステム設計(A)コースや前年度コースで、ネットワーク設計科目の強化の要望が出され、今後とも重要な科目であることから、ネットワーク設計科目を1日追加して実施予定である。研修員のシステム設計経験にはバラツキがあったがヴェネズエラ及びイエメンのクラスリーダーを中心にクラスのまとまりはよかった。

課題：ネットワーク設計科目の1日延長

(受入機関組織図及びOICとの関係図)

